

# 雄峯

第58号



TOKYO FUJI UNIVERSITY  
東京富士大学校友会

# 建学の趣旨

国家の前途と人類の将来は青年の優劣によつて決せられる。青年学徒はその使命の重大なるを痛感して常に至誠立つ指導者たるの修練に努めねばならぬ。

我学園は「人道による世界平和」の理想の下に時代を拓かんとする人材を養成せんとするものである。而してその構想は

一、大愛の涵養に努むること

即ち万物育成の大自然愛を養ひ諸民族の解放と和親を図り万邦の協和に貢献すること

一、正義の顕揚を図ること

即ち各々生存の自由と人格の尊厳を重んじ進んで自らの義務を完遂して億兆協力の実を挙げることに

一、文化の向上に資すること

即ち常に人類の幸福を念とし各々その能力を最大限に發揮して更に万象の特性を活かして天地の繁栄を図ること

以上は我学園の設立の趣旨にして我等の日夜遵守すべき原則である。而して我学園の理想たるこの「人道世界の建設」は我民族の理想に一致し、更に人類の理想に合致するものと思惟せらる。もとよりその実現は人間性の一変せざる限り永遠の努力を必要とするものではあるが、この事は人間社会の無限の発展を意味し又我学園の理想の高遠なる所以を示すものである。

我々は困難ではあるが光榮あるこの大道を全人類と共に進み斯くして人類に光明を与へ常に希望ある世紀を拓き以て負荷の大任を全ふせんことを誓ふものである。 以上

昭和二十二年四月

# 東京富士大学校歌

高田勇道／作詞・作曲

一、春爛漫の夢さめて

匂える花の移ろえば

世は盛衰を嘆けども

至誠の矜厳かに

文化の流れ拓かんと

破壊の嵐吹きすさぶ

曠野を進む若人の

燃ゆる眸に希望あり

二、興亡くらき人類の

歴史の波瀾たけれども

見よ東雲の黎明に

世紀の鐘の音高く

挙りて謳う大き世を

四海の人に語らんと

時代に起てる若人の

守る使命に力あり

三、ああ海原の空広く

精神は清き民族の

明日の道にそなえんと

この学舎に集いして

久遠にかおる建設の

理想を高く仰ぎつつ

すぐりて結ぶ若人の

固き誓いに光あり

## 雄峯 第58号 CONTENTS

● 建学の趣旨／東京富士大学校歌・目次	2
● あいさつ	2
● 雄峯第五十八号発行に寄せて 学長に就任して	3
● 卒業生に贈る会長の言葉	4
● 早坂忠博名誉教授を偲ぶ	5
● 日本デュースイ学会校友会元会長 東京富士大学元教授	6
● 東京富士大学校友会顧問 はたがひ会長	7
● 東京富士大学校友会元事務局長 東京富士大学校友会総務部長	9
● 活躍する校友 40年目、再びの卒業	9
● 文芸 春雷	9
● 古典の小路	9
● 賛助寄付者一覧表	10
● 今年度の賛助寄付の報告	11
● 東京富士大学に学ぶ	12
● 「大学時代の成果」	12
● 「人は失敗に学ぶ」	13
● 「学びを自信に」	13
● 「お世話になったすべての人に感謝」	14
● 総会講演会報告	14
● 「落語二題」 入船亭 扇里 師匠	14
● 研究会報告「マッターホルン登頂記」 東京学寮 校友研究会報告「鳩吹山からマッターホルン」 話し手	15
● 支部支会報告 会計人会の活動報告 会長	15
● 活動報告 雄峯マネジメント研究会事務局 少林寺拳法部雄峯会 会長	16
● 行事録	16
● 2019年度学園行事	17
● 令和元年度校友会事業計画	17
● 令和元年度校友会行事録	18
● 会計報告	18
● 校友会会則	19
● 校友会事務組織・分担表	19
● 編集後記	20
● 八城一夫	18
● 八城一夫	20
● 梅田一人	20
● 若狭茂雄	22
● 森川 昇	22
● 本間玲次	23
● 二上映子	3
● 井原久光	4
● 森川 昇	5
● 鈴木順子	6
● 蘇畑卓郎	7
● 若狭茂雄	9
● 細井隆夫	9
● 三井英一	10
● 青野貴礼	11
● 鶴木由美	11
● 田代伸子	12
● 関 實	14
● 編集委員会	14

## 雄峯第五十八号発行に寄せて

令和元年度 東京富士大学 卒業の皆様・大学院修士課程を修了されました皆様 おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

令和二年三月二十日に学位記授与式が行われ歴史に刻まれる社会人一步を踏み出される皆様です。

昨年五月一日新元号「令和」第一二六代天皇に即位された天皇陛下の皇位継承の儀式「即位後朝見の儀」の初日をお迎えになり十一月十日には大嘗祭パレード「祝賀御礼の儀」が行われました。列島は新天皇即位祝賀ムードが広がりました。

一方、台風15号・19号十一月十二日で一ヶ月。そのあと21号と続き甚大な災害である記録的な大雨の傷痕は大きく13都県にもたらしました。



又日本で一九六四年以来五十六年ぶり二回目の二〇二〇年オリンピック・パラリンピックが開催され、世界一治安の良い日本を紹介したく思います。

昨今・中年層の卒業生の方々が大学にお訪ね下さいますので懐かしく

嬉しくお迎えいたしております。  
精神（こころ）は清き理想を高く希望を持って前進していただきたく願って居ります。

皆様のご健勝を御祈念申し上げます。

三月二十日（春分の日）皆さまの門出を祝う卒業記念パーティーは中止となりました。

学位記授与式は万難の手段を講じたうえで挙行いたします。一月頃から肺炎を引き起こす新型コロナウイルス感染がいまや世界の脅威となつて広がってきています。

SARS（重症急性呼吸器症候群）・新型インフルエンザMERS（中東呼吸器症候群）に比べ日本では各地でクラスター（小規模な感染集団）の連鎖で徐々に感染が拡大しています。早く拡大防止策・手段を見出し抑え込んでいただきたい。企業経済全般が急落している状況です。

七月二十四日からの東京オリンピックを実施し成功させたいと思います。

卒業生の皆さま 校友会では六月第三土曜日総会が行われます。是非ご参加ください。校友会誌「雄峯」の「総会のお知らせ」をご覧ください。

令和二年三月

東京富士大学・校友会 名誉会長  
学校法人 東京富士大学 理事長 二上 映子

## 学長に就任して

東京富士大学学長 井原久光



「お前、ベトナムで人が死んでいるんだぞ。勉強なんかやらないだろう」と

経営学部のご卒業と大学院のご修了、おめでとうございます。編集部より「就任挨拶」を依頼されましたので、少しだけ自己紹介をさせていただきます。私は「全共闘世代」の最後にあたります。ベトナム戦争が激しさを増し、反戦運動が広がった一九六〇年代後半に高校生でした。校内でデモをやっていた、オルグという組織への勧誘活動をしていました。

ある日、私が体育の授業に行こうと思つて教室で着替えていると、ヘルメット姿の彼がやってきて「お前、ベトナムで人が死んでいるんだぞ。サッカーなんかやっている場合じゃないだろう」と迫りました。私はノンポリと呼ばれる「政治運動に無関心な学生」でしたので、彼の言葉を無視して体育の授業に行きましたが、「ベトナムで人が死んでいる」という言葉が耳に残つて、なんだか「自分は薄情な人間なのじゃないか」と思いました。ここで、小学校も中学校も高校も一緒にS君のことを書いておきます。S君は、近所でも評判の勉強家でした。柔道も強く、足も速く、ソロバンが得意で、どんなことをしても「勝てない」と子供心にも尊敬していた友人です。どうやら「ベ平連」の友は、S君のところにも

迫つたそうです。

その時、S君は「確かにベトナムで人が死んでいる。それを知らないながら勉強している僕は薄情に思えるかも知れない」「ただ、君に宣言する」「私は、一生をかけて君の今の質問に答えを出してみせると返答したそうです。高校を卒業すると、S君は東大の法学部に合格し、司法試験に受かつて弁護士になりました。そして「町弁（まちべん）」と呼ばれる「町の弁護士」になりました。今でも、弁護士費用が出せないような市井（しせい）の人々のために活動しています。つまり、S君は、その時はベトナムで死んでいく人を助けられなかったかもしれないませんが、一生をかけて「弱い人たちのために」働いていて、彼なりの「答え」を出しているのです。それに比べて私は、普通の大学を出て、普通のサラリーマンになっただけです。第一、S君は「勉強をしていた」のに、私は「サッカーに行つた」のです。実に情けない話で、S君からその話を聞いたときは愕然（ごうぜん）としました。

でも、そこから私の人生は少しずつ変わりました。私は私なりに考えました。もう、司法試験を受験する意欲はありませんでしたが、教育という仕事について少しでもお役に立とうと考えたのです。そして大学に入り直して教員になりました。もちろん、教育の現場はきれいごとではなく、私の教員生活は試行錯誤の連続でした。結果として、たくさん失敗を重ねてしまつたかも知れませんが、いくつかの大学を経て、東京富士大学にたどり着いたとき、本館のエントランスホールで「教育とは学生に生命をあたへてゆくことである」という言葉に触れた瞬間、居場所を見つけたように思いました。

よく聞けば、この大学は高田勇道先生が「良き人を創ることが、良き社会を作る」という信念に基づき「人道による世界平和」の実現を目指して設立されたそうではありませんか。二階建ての古家で始めた学校に大勢の学生が押し寄せ、

せ、学生みずから募金を集めて大学設立運動を起し、早稲田をはじめとする著名な大学の教授陣が高田先生の教育理念に賛同して協力したということも聞きました。高田先生は肺結核に侵され、医者からは絶対安静を言い渡されたという文字通り命がけでこの大学を創設されたということも知りませんでした。聞けば聞くほど、背筋が伸びる話ではありませんか。

現在の二上映子理事長も、建学の精神を学校運営の根底に据え、高田先生の遺志を守りながら時代のニーズに合わせて大学を発展させておられます。現在、この大学は、学生と教員が人間的に触れ合う「演習科目」や「プロフェッショナル・セミナー」を中心に据え、ビジネスで必要とされる能力、偏差値や学力では表せない多様な力を「実務I・Q」という指標にして、実践的な人間教育を行っています。

例えば、地元企業を訪れて学ぶ「G・M・T企業訪問」や、イベントの実際を現場で学ぶ「イベント実習」、オリンピック柔道金メダリストの松本薫選手の手引退会見で話題になった株式会社ジャスピコとの「アイスクリーム・プロジェクト」、新宿区と一緒になつて商店街や地域を活性化する「カミサカ・プロジェクト」、社会人の方々に学び直しの場を提供するプロフェッショナルカレッジなど、ユニークな教育プログラムを次々に展開しています。

来年度は、日本税理士会連合会から百万円の寄付を得て「税理士による租税講座」がスタートしますが、同連合会の神津信一会長も本学のことをよく知っておられました。素晴らしい教育理念や歴史があるからこそ、社会からも高く評価されているのです。

この大学に来て、高校時代の反戦学生からの問いかけによく私なりの「答え」を見つけた気がします。それは「人をつくり、人をつくること」によって平和にも貢献することです。今なら、そう胸を張って答えられます。

## 卒業生に贈る会長の言葉

東京富士大学校友会会長 森川 昇



東京富士大学経営学部卒業の皆様、ならびに大学院修士課程を修了された皆様おめでとうございます。また同時に校友会に入会されましたことを心から歓迎いたします。さらに新しい仲間ができましたことを、多くの校友会会員とともに喜びを感じております。

今日この日を迎えられた皆様は、4年前、勇気をもって本学への一歩を踏み出されたことが卒業という今日を迎えることができたのです。この4年間の中で、勉学等についていろいろ悩み苦しみがあったことと思います。が、最後まで粘り強く志を持ち、あきらめなかったことが卒業という日を迎えることができたのだと思います。これは本人の努力はもちろん、陰で支えてくださった家族をはじめ、大学の教職員、そして学友との強い絆があったからだと思えます。その

方々への感謝の気持ちを忘れてはならないのです。

さて、卒業と同時にほとんどの学生は、実社会で仕事をしていくわけですが、その門出にあたって一言述べさせていただきます。

4年間、大学で学んだことが即、活かされることは稀であります。いざれ活かされる時が必ずきます。それまではじっくりと、いま与えられた仕事に全力で取り組んでください。そのことが一歩一歩キャリアを積み重ねて行くことになると思います。

私自身は、二四歳で富士短期大学企業経営学科一部を卒業し、大学で学んだ学問（知識）が、活かされたのは卒業から7年後でした。経理の補助業務から始まり、直営部門の集金、自動販売機の商品補給と集金等、その後にはやっと庶務業務も任せてもらえるようになりました。一見つまらなそうな仕事にも工夫次第で楽しくなってくるものです。仕事は工夫と自分の気持ちの受け止め方次第で楽しくもなったり、空しくもなったりするものです。焦る必要はありません。今の内から少しずつ勉強していただく。この小さな一滴（実践）がやがて大河の流れになるのではないのでしょうか。

昨年5月に元号が変わりました。

皆様は令和になった最初の卒業生になります。今年の干支は子年です。子年の子は了という字に「一」を書きまします。これは、終わりと始まりを表しています。平成の時代から、令和の時代が始まったことに通じます。皆様も卒業という学生生活に終わりを告げ、社会人として新たな生活が始まります。常に時代を切り開いて行くのは皆様のような若い力なのです。明治維新、戦後の復興しかり、若い力が原動力になって新たな時代をつくってきたのです。皆様は大学で学問（知識）をたくさんインプットしたわけで、それを今度は、社会にアウトプットしなくてはなりません。知識は行動によって活かされなければ、宝の持ち腐れです。知識と行動これは車の両輪です。これから社会に出ると、いろいろな事に遭遇します。その都度、考え悩み抜いたら恐れずに行動することが大切です。行動を起こさなければ何も変わらないということを肝に銘じ、それぞれの夢に向かって挑み続けて行ってほしいと願っています。

### 校友会会員になられた皆様へ

本年度校友会会員となられた皆様へ、「校友会活動の目的と事業」を記載しますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

第3条（目的）  
本会は、会員相互の資質の向上と親睦を図り、あわせて母校の発展に寄与することを目的とする。

### 第4条（事業）

本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 1・各種研究会及び親睦会の開催
  - 2・会報の作成及び配布等
- 校友会の一員として、校友会活動には非ご参加ください。（詳細は大学のHPをご覧ください）。

次に、会員の皆様へ、一昨年度から始めました、財政問題の取り組みについてお知らせいたします。予算の関係上卒業年次より順次ご案内をさし上げることになりました。昨年度は、昭和46年から昭和50年の卒業生を対象に「賛助寄付ご協力をお願い」文を郵送しております。寄付金の総額は、別掲（雄峯58号）の通りであります。今年度は昭和51年から昭和55年の卒業生を対象に郵送いたします。この取り組みはまだ始まったばかりで、成果を出すにはまだまだ時間がかかりますが「継続は力なり」焦らずに続けていきたいと思います。会員の皆様には是非ご協力ご支援をよろしく願っています。

（昭和47年 企業経営学科一部）

## 早坂忠博先生を偲ぶ

学校法人東京富士大学理事、初代学長、富士短期大学第八代学長を歴任されました早坂忠博名誉教授が令和元年六月十一日永眠されました。（享年八十二）  
謹んで哀悼の意を表します。

### 早坂忠博先生のご逝去を悼んで

日本デューイ学会 鈴木順子



早坂先生と初めてお会いしたのはもう30年以上も前

のことです。「日本デューイ学会」（アメリカの代表的な哲学・教育学者であるジョン・デューイを中心にアメリカの哲学・教育学を研究する学会、以下「デューイ学会」と略す）の関東地区読書研究会の会場でした。

当時この学会の会長は早稲田大学商学部教授の峰島旭雄先生でしたが先生は、学長ご就任後まもなく「デューイの主要な著書は訳書ではなく原典で読みましょう」と学生や若手会員達に呼びかけら

れ、関東地区会員には早稲田大学の高田牧舎を会場として月1回使用可能となる手続きを行って下さり「デューイを原典で読む読書研究会」を立ち上げて下さいました。

使用テキストはデューイ著書中難解中の難解とも言える『経験と自然』（EXPERIENCE and NATURE）でしたが、峰島先生も出席され参加者が自ら原典に触れ理解を深める手ほどきをして頂けるといことでした。

この呼びかけにいち早く反応されたお一人が早坂先生でした。当時すでに富士短期大学にご勤務だったと思いますが、持ち前の向学心に少しの翳りもなかったようで、「自分は若いとは言えないが、それでも参加できるで

しょうか」というお手紙を出されたそうです。すると峰島先生は大学教授であるとともに浄土宗増上寺の住職としてご多忙であつたにもかかわらず、「間髪を入れずの感じで」先生ご自身から直接丁寧なお誘いのお電話があり、その温かく直接的な行動に「驚き感動」し、峰島先生のお人柄に「慈悲の心に発する働きかけ」の一端が感じ取られたと早坂先生は後日エッセイに書かれています。

この読書研究会に私は1、2年遅れて参加させていただきましたが、早坂先生と個人的にお話する機会を得たのは、デューイ学会理事会の会場だったと思えます。理事の方々の中のお一人に少しばかりこわもてで、取っ付きの悪そうな人だなと内心思った方が早坂先生でした。



その後、私も理事の一人となつて皆様と雑談する機会も増えたある日、お茶の時間だったかこの時の第一印象について早坂先生にお話したところ、先生は辺り構わず「豪快に」吹き出され高笑されたのでほっとした事を思い出します。

その二三年後に私が会長職を引き受けることになってしまい、研究面でも組織運営面でも非力この上ない身の私はとても不安でした。当時他の諸学会も例外なくかかえていた問題は、二十一世紀社会にふさわしい学会活動のための諸改革という課題であつたと思われませんがデューイ学会でもその一つに、学会活動の中枢をなす研究紀要の編集方針再検討がありました。

この問題は予想以上に多様な意見が出て戸惑いましたが、そんなとき事務局長の大役を高頭直樹先生が、また「紀要」編集方針検討委員会委員長を早坂先生がお引き受け下さり大いに力になっていただきました。お二人は同窓のよしみもあつてこの時以降も力を併せて会の運営ほか何かと私をお支え下さり、非力な私が一応大過なく無事に任を終えることができ

ました。感謝しています。また、この時からのご縁で時折三人でお食事をしましたが、お二人が哲学・思想の話題になるとまさに口角泡を飛ばしての激論をされました。その時お二人の必死の形相に私は笑いをかみ殺すのに苦労しながらも、若かりし頃のお二人の学問・思想への旺盛な探究心を垣間見たようで羨ましい思いになったことを懐かしく思い出します。

そういえば早坂先生は、早稲田大学政経学部ご在学中に、デュイの名著の一冊である「人間性と行為」に出会い、その人間観の斬新さの虜となり、デュイをより深く研究したいと一念発起して東京大学に学士入学され倫理学を専攻、デュイ研究を始めた、友人に語られたことがあるそうです。そこで終わりに、先生のそのデュイ研究に関して論文（学術雑誌掲載）「デュイ倫理学の視座」について簡単に紹介しておきたいと思います。

この論文はデュイの（イ）『哲学の改造』（ロ）『人間性と行為』

の二書におけるデュイの「倫理学」に関する見解を「カントの仮言命法と規定して」考察してみるとデュイにおける特徴は、「個別的な状況を重視しこれに即して自然科学の一般的方法を適用していくこと」、「道徳の問題」に「欠陥の発見、問題解決の方法に関わる探究的なもの」としての「知性」を中心に据えること、（ロ）に関しては、「仮言命法に従う行為」として「現場への誠実な」「具体的状況」「独自の善を実現するユニークなもの」などがあげられる。こうした諸特徴を抽出し、その「意図」を明確化・徹底することによってデュイ倫理学を「現代倫理学」に構築できるのではないか。

早坂先生はこの難解なテーマに挑戦されようやく探究の視界が開けかけたところで癌の宣告をうけられました。どんなに悔しい思いをされたことでしょうか。けれども先生は抗がん剤治療のため消耗してきた身で「第九の合唱」の舞台に立ち、シラーの「人間賛歌」を絶唱され、毅然とした決別の仕方を

を示されました。

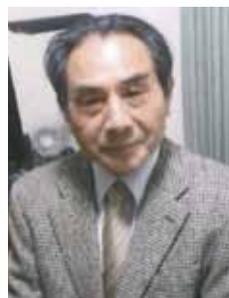
その勇姿を私たちは忘れないで

しよう。

（大東文化大学名誉教授）

## 早坂忠博先生を偲んで

東京富士大学元教授 蘇畑卓郎



初の東京オリピック大会が開催された年

早坂忠博先生は私が早稲田大学に入学した昭和39年（1964年）—この年は今から56年前のあの最初—の東京オリピック大会が開催された年でした—の2年前、昭和37年に学部を卒業しておられますので、学年では私の6年先輩になります。先生は政経学部経済学科に在籍していたながら経済学に関心が持たず、卒業後に改めて東京大学文学部倫理学科に学士入学され、昭和39年当時はそちらで学んでおられたはず。そういう訳でしたから、その頃は先生とお会いする機会もなく、面識は全くありませんでした。その後、私が学部の三年生になり、酒枝義旗先生の

ゼミナールに入ったことから、そのゼミの先輩であった早川先生との絆が生まれたのでした。私が初めて早坂先生にお会いしたのは、私が大学院に進み、当時早稲田大学を定年退職して富士短期大学に移っておられた酒枝先生のお宅での数人によるゴットル研究会においてだったように記憶しています。当時、早坂先生は富士短期大学に勤務しておられ、確か、大学の近くにお住まいでした。初めてお会いした時の先生の印象は控えめで、言葉数の少ない方というものでしたが、その後、お付き合いを重ねるにつれて、話し好きだが、知ったかぶりが全くない、自他に対して飽くまでも正直で誠実なお人柄であると知るようになりました。早坂先生のこの誠実さは単に対人関係における一貫した姿勢であるだ



けでなく、先生の学問的姿勢の根幹をもなすものだったように思います。これが早坂先生が大学入学以来ブーツと酒枝先生に惹かれ、経済学から離れた後も、哲学的色彩の濃いゴットル経済学研究会に出席しておられた理由だと思われるのです。お二人のこの関係を示唆するのが、早坂先生が大学卒業の翌年昭和38年（1963年）に酒枝ゼミナール誌『出会』に寄稿された一文です。これは軽妙で、ユーモラスな文章ですが、早坂先生の人となりを知る者にはとても興味深く、示唆に富む短文ですので、ご紹介したいと思います。

### 「心にもある言葉」

早稲田大学政治経済学部経済学科昭和37年卒業 早坂忠博  
酒枝先生がキャバレーに行ったそうである。バアの方だったかもしれない。それはまあどうでもいいのであるが、そこには女性がいたのだという。そして、その女は、先生に向かって意味のないことをはなしてくるのだった。  
「君等ああいうところへ行ったりするので。ーいや、しかしまさか…」と先生はつづけ、そこで又学生達はワアツと笑った。  
このはなしは弟から聞いたのであるが、先生が、その女に「エッ、エッ」などと相づちをうっている姿を考えるとなんだかうれしくてしょうがなかった。  
ボクは「意味のないことをはなしかけてくるんですね。」という先生のことを重大なものと考えた。それは現代という時代を考えた場合にハツと身に迫ってくるはずである。

自分は、先生のこのはなしを人に伝える時に、「心にもないことを云っちゃいけないと思うよ。」と熱っぽくつけ加えるのがくせになった。心にもないことを云ってはいけない、ということはどういうことを云いたいのか、自分でもはっきり判らないのであるが、まあ次のような気持ちらしい。

心にもないこと、それはなにも冗談や、おしゃべりを意味しない。おせじを云ったり、おべっかを使ったりするなということ、でさえもない。そうではなくて、逆に、心にもあること、が一体あるのかという問いである。口に出すことばと本当に考えていることが一致しているかということの前に、心にもあること、が自分にあるかどうか問題である。

心にもあることばならば、どこの誰がいう言葉であろうときかなければなるまい。ほんとうに、心の中で育てられた言葉、あたためられた言葉

ならば耳を傾けなければならぬ。云うべくして云われた言葉をおろそかにしてはいけないだろう。ボクは、その人のことば、他のどのひとでもないその人が云うことばには大切な意味があると思っている。

ボクは、酒枝先生のおはなしをきくと、先生はほんとうのことをしゃべっているんだと確信する。自然科学の必然性という意味のほんとうのことではない。にんげんというものに関するのほんとうのことである。ボクは、先生のおはなしをきくと、酒枝先生というその人が（自分にかかわりのない知識を並べているのではなく）酒枝先生にかかわりのあることをしゃべっているのだということを得する。

酒枝先生はキリスト教信者としてのお立場から、特に「出会」ということばを尊ばれ、ご自身のゼミナールの誌名に使われたと思いますが、来し方を振り返る時、暖か

く、ユーモアがあり、誠実で、何事であれ心伝心のように存分に語り合うことができた早坂先生との関係は私にとって掛け

替えのない「出會」の一つであり、このような貴重な一期一会に恵まれたことを今も深く感謝しています。

## 長い間ありがとうございました

東京富士大学校友会顧問 若狭茂雄



私が早坂先生にはじめからお目にかかったのは、富

士短期大学で毎年8月ごろ行われる本学簿記部主催の「簿記競技

大会」に挨拶された時のことでした。それが平成何年かはつきりしませんが、独特なるテンポで話される姿が目につかびます。

校友会とは井上和子先生が校友会の会長になられ、私も校友会に松本守先生と一緒に校友会に本格的に関わるようになったので、早坂先生と親しく会話が弾むようになったのはつい昨日のように感じます。

平成14年4月に東京富士大学開学を迎え、井上和子先生、松本守先生その他の仲間達と3年次編入生になり、2年間学んだ時期が早坂学長で日常の学生生活の楽しいこと、辛いこと、学園の出来事を色々な角度から意見交換したものです。

平成16年3月に卒業証書を優等賞の授与や高田奨学生を頂戴した時におめでとうよく頑張りましたねとお褒めの言葉を頂いたときは、私もいい歳ながら、涙目になり、先生と握手できた事に感謝申し上げます。

その後、岡村一成先生に学長を譲られ、私も校友会の会長として接しつつ、東京富士大学の理事になられ、私が監事として、大学の

理事会でお会いすることが度々でしたが、そのうち体調がすぐれないとのことで、理事も去られお会いする機会が無くなり、暫くしてこの様な訃報を知らされびっくりしているところです。

がら、感謝の言葉さえ直接言えなくてとても残念です。長い間有難うございました。合掌  
(昭和41年 経済科2部)  
(平成16年 経営学部夜間主)

## 早坂忠博先生を偲んで

ほたび会会長 細井隆夫



「ほたび会」は富士短期大学1部ワンダーホー

ゲル部のOB会で、昭和43年に発足しました。早坂先生との出会いは、昭和41年に入學してしばらく経ってからです。

知り合いからワンダーホーゲル部(略ワンゲル部)に入らないかと誘われ、以前から山に興味がありましたので入部しました(顧問の早坂先生との出會いです)。当時、先生は29歳(独身)で顧

問の先生というか年齢的には兄貴分のような存在でした。分のような存在でした。

昭和42年の夏合宿は北アルプス「白馬岳」でしたが、先生は自由行動が多く、リーダーとして私が先生を厳しく注意した記憶があります(50数年前のことです)。短期大学は在籍が2年のために、縦のつながりが難しいのですが、先生は接着剤のようにワンゲル部を繋いでくれました。しかし、女子学生の増加に反しワンゲル部の部員は減少し、残念ながら昭和60年に廃部となりました。その後「ほたび会」は早坂先生を軸に存続し現在に至っております。



生ご夫妻は大いに楽しんでいました。また、フェニックスで買った「サソリの館」をなめている無邪気な写真が大変印象的でした。

大学を退任後どのように過ごされるかも心配しました。地元土浦の合唱サークルに入ったとお聞きして驚きましたが、何度か発表会を聴きに行つて先生の本気度に納得しました。

平成29年11月11日に、先生の「傘寿」をお祝いする会を「アルカディア市ヶ谷」で開催し、アメリカをはじめ全国から52名の会員が集い、先生ご夫妻と楽しいひと時を過ごしました。

平成30年6月、先生のご希望でしたアメリカ旅行が実現しました。早坂先生ご夫妻をはじめ9名で、アリゾナ州・セドナをベースにグラランド・キャニオン・アンテロープを見物する4泊6日の強行スケジュールでした。

ロス在住の会員香川さんの案内と清水君が運転するレンタカーで早朝から深夜まで行動しましたが、先

た「サソリの館」をなめている無邪気な写真が大変印象的でした。

先生との最後の山行は平成30年10月の箱根湯坂道です。緑内障で片目が見えず、前立腺癌の進行からくる体力の衰えで大分苦勞をしていました。

昨年1月29日に芸術劇場で開催された癌研主催の「がん患者による第九」の発表会は、入院治療中なので出演は難しいのではと案じていましたが、出演し最後まで歌い上げました。

その後、先生の体調が思わしくないとのこと、有志が6月12日にお見舞いに行く予定でした。その前日、奥様に連絡をしたところ、今先生がお亡くなりになられたと伺い茫然自失となりました。

振り返ると、傘寿のお祝い・アメリカ旅行と、先生ご夫妻と楽しいひと時を過ごせたことは、私にとつて素晴らしい思い出となりました。

早坂先生、50年余りワンゲル部及び「ほたび会」に暖かいご支援をいただきありがとうございます。衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(昭和43年 経済科)

## 早坂学長を偲んで

東京富士大学校友会元事務局長 三井英一



今から45年以上前の昭和47年、富士短期大学経済学

科に入学しました。その時が早坂先生との最初の出会いでした。哲学の講義を受けました。

印象に残っているのは「君たちは2部の学生だから、授業に出る時間を作るのは大変だろうが、一度欠席するとずるすると怠け癖がつくので、どんなに遅刻しても授業を受けなさい」という言葉でした。その当時は22歳〜23歳で、仕事と夜のお付き合いに流されがちになるところを、早坂先生の言葉で歯止めがかかり、無事に卒業できました。

もう一つ、試験の答案の書き方で勉強になりました。「文章を書くことに慣れていないから、ドラドラと文字を並べているような回答ではダメですよ。きちんと結論が分かるように、何を言いたいのかわか

るように回答しなさい」と教わりました。これはその後の税理士試験に大変役立ちました。

次に先生とお会いしたのは、富士短期大学の校友会事務局長をしている時でした。短大の時と同じような訥々とした話し方を懐かしく感じました。校友会行事について、色々とご尽力いただきありがとうございました。

そして、当時の校友会会長の松本守先生から「三井君、東京富士大学で一緒に勉強しよう」と誘われました。その時は二人の子供が大学生で、学費のことを考える

とちよつと無理かなと思つていましたが、早坂学長から「社会人としての経験を生かしながら、若い世代の人と勉強するのもいい経験になるから物事を見るのも必要ではないかと思うよ。税法ではなく違う観点から」と言われました。

入試は推薦で大丈夫とのこと、

二年間の学生生活をスタートし、今から振り返るととても充実した学生時代だったと思います。後押しをしてくださりありがとうございます。

## 早坂教授から学んだこと

東京富士大学校友会総務部長 青野貴礼



本学が四年制になった最初の年。私は、他の学生に「まわり遅

れて大学生になった。けれどそのことで、今思えば少なからぬ自惚れがあったのだろう。「私は他の学生より社会を知っている」と。「だから授業に於いては、その経歴に値する振る舞いをする義務がある」と。大学初年度、基礎ゼミの担任教師は、早坂先生だった。そして先生は、あるエッセイを生徒たちに読ませ、節ごとの読解を毎週レポートとして提出することを求め、それを中心に講義を行うという形式で行われた。けれど私は、このエッセイの著者、その内容に、共感出来ずにいた。

そのエッセイの著者は心理学カウンセラーであり、そのカウンセリング録の集約がそのエッセイだった。そしてカウンセリングというものは、A氏に対するものとB氏に対する

いました。  
ご冥福をお祈り申し上げます。  
(昭和49年 経済学科二部)  
(平成16年 経営学部夜間主)

ものが、相互に矛盾するアドバイスをすることもある。当然だ。A氏を取り巻く環境と、B氏を取り巻く環境が、同じであるはずがないのだから。けれどそれが二冊の書籍としてまとめられた時、第三章で語られている内容と第五章で語られている内容が、相互に矛盾するという形になってしまう。正規の文筆業者が書いたエッセイであればこの辺りは何らかの補正を加えるべき部分であろうが、けれどそれがなされていなかった。

そのエッセイをゼミの題材に選んだのは、早坂先生。だからそれは、早坂先生自身の人間性を反映している。当時の私は、そう解釈してしまったのだ。だから提出するレポートは、毎週かなり攻撃的なものになってしまっていた。

けれど、そんな矮小な自分を思い知らされたのは。卒業して数年後のことだった。富士祭に於ける、校友会の講演で。早坂先生が自身の思い出を語られた時。私のことにも触れられた。基礎ゼミで。漢字の読み間違いを鬼の首を取ったよ

うに取沙汰した私の言葉も、真摯に受け止めてくださり、それから数年経つてもそのことを憶えていてくださった。先生がそのことを語られた時、私は自分が無性に恥ずかしかつた。

先生は、学生二人一人のことを見てくださっている。その学力のみならず、その背景に至るまで。「自分は大人である」と奢っていた、当時の私さえ、学幼き子供に過ぎなかつたのだと、その時思い知らされた。

自分の未熟さを、その時点で知ることが出来ないかと理解して

## 早坂先生が歩んだ広い世界

東京富士大学校友会雄峯編集委員 鶴木由美



舞台の上では軽やかなハーモニーが流れています。

黒いスーツ姿の男性群と白い上着の女性群が並び、照明に映えて額縁に収まっているようです。これはある合唱団の発表会の風景です。その中の一人が早坂先生でした。

先生は他にも山歩きを愛する登山家でもあつたのです。それぞれの活動は、学究者としての休息の時？それとも、これは思考の表現の一つだったのでしょうか。

も。それでもあの頃、もつと真摯に、もつと多くのことを学んでおくべきだった。今更悔いても詮無きことだが。

先生は、今でも教鞭を揮っているのだろう。既に鬼籍に入った多くの先達の為に。なら私は、次に見えるときには、胸を張って成長した姿を見せられるように。これからは更に学んでいかなければならない。けど、今は。ただただ、手を合わせ、故人を偲ぶ。合掌。

(平成18年 経営学部夜間主)  
(平成22年 大学院経営学研究修士課程)

先生は校友会としては『雄峯』の貴重な執筆者でした。学術的、社会的なものから、助言とエール等がありました。すべて完全で、あわてて紙面を変更する事もありました。

様々なものからの解放を急いだ先生、その後の空間、空疎感を誰が埋めるといふのでしょうか。

多くのご指導、ご協力に感謝申し上げます。ほんとうにありがとうございます。

今頃はいつもの温和な表情のまま、雪に覆われた山の稜線を眺めているのでしょうか。どこからか美しいメロディーが……。どうか安らかに。

(昭和30年 経済科)

## 活躍する校友

## 40年目、再びの卒業

田代伸子

後輩のみなさん、ご卒業おめでとうございます。やってのけた達成感、ひとしおですね。よく頑張りました。

じつは私ごとですが、短大卒業して40年目の昨年3月に勤めていた職場を定年退職することができました、それも卒業です。

それと同時にもうひとつ、10年前に編入学していた放送大学を卒業することができました。それはそれは嬉しくて、いただいた学位記を持って、あちこちに見せびら



かしに歩いたものです。

その放送大学では、面接授業のついに「女性と福祉」の科目があり、「あなたにとって、女性であるが故に嫌な目にあったか?」と。言う問い掛けが先生からありました。

最近 わが家では5歳年上の夫との夕飯時の話題は、「私たちは、年金の支給開始年齢が引上げになつたりしているけれども、まあまああつたりして退職を迎えることができましたね。」でした。そう思っていたのですが、この問い掛けは、もう一度私の半生を考え直すキッカケとなりました。

思い起こせば、卒業の年の1979年、就職のとき、今ほどではなかったですが、経済状況はあまり良くなく特に女子学生には逆風が、吹き荒れていました。会社説明会に行けば、「短大の方は結構ですが、四年制の方はご遠慮

ください」と、はつきり言われました。女の歳はクリスマスケーキと言われた時代です。「24は売れる、25はまだ売れる、26はもう売れない」女性は、25〜26歳で職場からは、退場してしまう?させてしまふ?と、最初から考えていた証拠です。失礼な話です。

「長く働きたい」これが私の希望でしたので、「面接に行けば「長く働きたいです」と、答えていました。それが、ダメだったのか?、私自身がダメだったのか?、定かではありませんが、私の求職活動は、困難を極めました。

そんなとき母の勧めで、地方公務員の試験を受けてみることにしました。当時の私は「丸の内OLになりた〜い」なんて、能天気なことを言っていたので、本当は地方公務員にまったく興味がなかったのですが…。

後々、この選択は大成功!今日に至ります。

その次は、1990年に、結婚したときです。私は、名前は「続きのもの、役所の届出で名前が

変わるの嫌だ!と思っていたので、事実婚を選びました。夫は「それでいいよ」という人であり、また、私の周りには、けつこうという人が多かったこともあり、すんなり受け入れたものです。

しかし、世間は違いました。「なんで名前が変わらないの?」「婚姻届は出さないの?」と、などなど余計なお世話です。

しかし、今では、職場では旧姓使用OK!旧姓のまま働いている若い同僚はいくらでもあります。ついに住民票にも「旧姓」を併記できる時代がやってきました。

私の選択は、誰にも後ろ指さされることはなくなつたのです。名前は誰だつて変えたくはなかったんだ!と、思った瞬間でした。

さて、1979年4月、丸の内OLになれなかった私は、地方公務員として歩き始めました。

ある日、「新しく入った人だね?名前を教えてください」と、聞かれたことがあります。「田代です」と答えると、「女の人はすぐに変わっちゃうから下のお名前は?」と、言わ

れたのです。

その時は「ふくん」と思っただけでしたが、このことは、女性が結婚しても、子どもを育てながらも、働き続けていくことができ、男女で定年の年齢も、給与体系が違うわけでなく、長く働くことが目標であった私にとっては打って付けの職場でありました。またこの頃から、電算化の大きな波がやってきていて、経験が長い人がエライ！長ければ長いほどエライ時代から、大きく変わっていきつつあったところでした。

何しろ、「そろばん」から「パソコン」に変わる最初の時です。新しいシステムに柔軟に対応していくことのできるしなやかさが、新しい技術の習得に求められるようになっていきました。果敢に挑戦し、上手く切り回せるようになると、最年少ながら先輩方から重宝され、可愛いがられていたことも、私には幸運でした。

この職場に身をおいたおかげで、男尊女卑の荒波に揉まれることもなく、働きやすい環境は、多くの

同世代の女性に比べて、実に幸せであったと思っています。

バブルの頃も、良い思いをしたわけでもなく、エライなるつもりはなく、平々凡々と過ごしてきましてが、「誰かさん」のために仕事をすると役所の水が性に合ったらしく、楽しい日々でした。もちろん、そうは言っても嫌なことだってたくさんありました。でもそれは全部、忘れてしましましょう。

これまでの40年の間、何より、自信を持って生きてこれたのは、働くことで得られた経済的な自立があつたからこそ、であつたと思います。

退職辞令を受け取ったとき、「あの時、母の言うことを聞いておいて、良かった！」なんて、つい思ってしまった。

### これからのこと

人生100年と言われる時代です。私の仕事は一段落。夫は、すでに完全退職。でも、私にはあと4年の再雇用期間があり、少なく

とも年金が出るまでの二年間は働くかな？と考えています。

私にも、頑張った分だけ実りの成果があるはずですよ。

これまで、大きな病気をしたことがなかったのが自慢でしたのに、4年前に病気の王様「がん」を患いました。7ヶ月の病氣休職をし、手術、抗がん剤治療を乗り越えています。早期発見であつたため病気のせいで具合が悪くなったことはないのですが、健康のありがたさは、身にしみています。

これからは、何よりの健康第一、体力勝負！です。

夫は「仕事のために具合悪くなったり、病気になるたり絶対するな！そんなことになりそうだったら、辞めてしまえ！」と言います。そのとおり！であるし、さらにクヨクヨ考えると免疫力が下がるらしいので、絶対無理せず、生活しています。

一歩先を行く夫は、50歳の時に始めたバイオリンを毎日練習し、週二回は、体操教室と太極拳に通っています。年金だってもらっている

んです！

私だって負けられません！大好きなハワイに毎年遊びに行つて、手術で辞めていた水泳をまた始めて、放送大学の全コース制覇（グラウンドスラムと言っらしいです）を目指して、あとは、何をしようか？ワクワク、ドキドキこれからの人生は楽しみはいっぱいです。

後輩の皆さん！40年後のことなんて、想像ができないですよ。私自身も、20歳だった卒業の年、そんなこと全く考えられませんでした。

でも、絶対来るのです！これから先、楽しいことも、嬉しいことも、嫌なことも、悲しいこともあるでしょう。でも、嫌なことは早目に忘れてしまいうに限ります。内向きにならず、広い世界に目を向けましょう！そして困った時は、助けてくれる人も絶対いますよ！

明るく、元気に、楽しく、共に頑張らしましょう！

（昭和54年 経済学科）

文芸

春雷

関實

春の海 足裏の砂の あたたかし  
 春雷の 河渡りゆく 響きかな  
 探梅の 一日まったく 雲を見ず  
 吉野路を 彷徨いながら 春惜しむ  
 濃き影を 落とす大樹や 夏来たる  
 音もなく 流る最上の 雷のあと  
 ロープ持ち 吊り橋わたる 夏の川  
 盆踊りの 曲の変わりに 波打つ太鼓  
 食卓の 窓辺の秋陽 来てるたり  
 万葉の 木々の梢の 片紅葉  
 拝殿に 木の葉舞い入る 神の留守  
 鳥乗りて 池の薄氷 動き出す

文芸

古典の小路こみち

編集委員会

石田梅岩『都鄙問答』(元文四年(1739))  
 を読む

A・スミス(1723~90) “Lecture on Jurisprudence” (1766) が、 “Whenever commerce is introduced into any country, probity and punctuality always accompany it.”

(この国であつても、商業が導入されればつねに、誠実と几帳面がそれに付随して起る)

なぜなら、 ‘A dealer is afraid of losing his character, and is scrupulous in observing every engagement.’ (商人は自分の評判を落とすことを懼れているので約束を守ることに几帳面である) ‘Wherever dealings are frequent, a man does not expect to gain so much by any one contract as by probity and punctuality in the whole, and a prudent dealer, who is sensible of his real interest, would rather chuse to lose what he has a right to then give any ground for suspicion.’ (商業取引が頻繁に起るころはどの店であつても、人はどんなものであつてもなにかひとつの契約によつて全体としての誠実さと几帳面さによつて得られるのと同じだけのものを得ようとは期待しないのであり、自分の本当の利害についての感覚をもっている、慎慮ある商人は何らかのうさん臭さの根拠を与えるよりも自分の持つてゐる権

利を無くするのを選ぶであらう) ‘When the greater part of people are merchants they always bring probity and punctuality into fashion, and these therefore are the principal virtues of a commercial nation.’ (世間の人々の大部分が商人であるときにはかれらはつねに、誠実と几帳面が流儀になるので、したがつてこれらは商業国民の第一の徳なのである) ‘These virtues in a rude and barbarous country are almost unknown.’

(これらの徳は、無教育で教養のない国では、ほとんど知られていない) などと言つていた頃、そのすこし前に、日本では丹波国桑田郡東縣村(京都府亀岡市東別院町東掛) から京都に出て23才のとき上京の呉服商黒柳家に備わっていた石田梅岩(貞享二年(1685)~延享元年(1744)) が享保十四年(1729) 四十五才にして講義を開いて、十年後に刊行した『都鄙問答』に注目してみたい。

「商人は勘定委しくして、今日の渡世を致す者なれば、一錢輕しと云べきに非ず。是を重ねて富をなすは商人の道なり。富の主は天下の人々なり。主の心も我が心と同じゆへに我一錢を惜む心を推て、賣物に念を入れ少しも鹿相にせずして賣渡さば、買人の心も初は金銀惜しと思へども、代物の能を以て、その惜む心自ら止むべし。惜む心を止善に化するの外あらんや。且天下の財寶を通用して、萬民の心をやすむるなれば、天地四時流行し、萬物育はると同く相合ん。如此して富山如くに至るとも、欲心とはいふべからず。欲心なくして一錢の費を惜み、青戸左衛門が五拾錢を散して、十錢を

天下の爲に惜まれし心を味ふべし。如此ならば天下公、の儉約にもかなひ、天命に合ふて福を得べし。福を得て萬民の心を安んずるなれば、天下の百姓といふものにて、常に天下太平を祈るに同じ。且御法を守り我身を敬むべし。商人といふとも聖人の道を不知は、同金銀を設けながら不義の金銀を設け、子孫の絶ゆる理に至るべし。

實に子孫を愛せば、道を學て榮ることを致すべし」(卷之二、商人の道を問の段) 商人が実現する利潤が正義性を獲得できる限度について、中世で卓越した思想家の二人であった Thomas Aquinas(1274.3.7 没) は、'A just price was one that would compensate the seller for his efforts in transporting the good and in finding the buyer at a rate that was just sufficient to maintain the seller at his customary or traditional station in life.' と言ひつゝ、現代アメリカで使用されてゐる Economics の教科書のひとつに書かれていた個所があつたのを覚えています。

読み取れることは、生産者の辛勞・辛苦によつてでき上つた生産物を、粗末に扱うことなく、その価値を疵つけることなく、保全に十分の注意を払うこと。使用者・消費者が予定し期待する使用価値の媒介者として、虚偽のないように努めよ。運輸費、保管費、店舗費、販売諸経費

等の中で冗費は節約すること。費用を掛けたからといって、生産物の使用価値が基本的には増えるわけでもなく、それを購買者に転化するにしても自から限度のあることをよくよく知ることである。

費用の節約が商人としての生命ではあるけれど、いわば薄利多売の方向で利潤の実現に努力するようにせよ。利潤の実現と、もちろん他方で値下りによる損失発生時の補填は、常時考えていなければならぬが、日頃から顧客の信用を獲得していないと、不利なときに打つ手が制約されることをよく考えておくように。



岩波文庫『都鄙問答』(1935)  
二六～二七ページ

賛助寄付者一覽表

- |       |       |        |
|-------|-------|--------|
| 相原英一  | 小室幸一  | 平井重男   |
| 荒谷美代子 | 島根秀光  | 藤崎正之   |
| 飯島米光  | 白石喜一  | 細瀨寿夫   |
| 池田紘   | 白石八重子 | 堀川政美   |
| 岩ヶ谷吉範 | 鈴木孝   | 増島敏雄   |
| 岩下忠吾  | 鈴木隆司  | 益田澄子   |
| 大久保拳志 | 曾我美保子 | 森山久    |
| 荻野信男  | 竹花維夫  | 矢嶋明    |
| 小泉隆勇  | 田島満喜枝 | 山中誠    |
| 小林愛夫  | 知念常喜  | (五十音順) |

今年度の賛助寄付の報告

寄付された校友の人数 29名

寄付の総口数 55口

校友の皆様には賛助寄付の趣旨をご理解いただき、多くの方のご厚意をお受けすることが出来ました。大変ありがとうございます。

校友会を代表いたしました心よりお礼を申し上げます。

校友会会長 森川昇

## 大学時代の成果

加藤吉暁



私が大  
学時代に  
注力した  
ことはゼ  
ミ活動と  
学友会活  
動です。

東京富士大学を志望した理由が、隅田ゼミが専門としている交渉学を学びたかったためです。そのため、隅田ゼミに入る事が出来た2年生からは、より一層頑張りました。活動内容は、交渉学に関しての理論を学ぶ座学と、企業対企業の取引を想定しての模擬交渉を行ないました。他にも他大学と合同で研究発表会を行うなど、大変難しい授業でしたが、社会で役立つ多くの経験を得られました。

二つ目の学友会活動は1年生の後期から参加し、同年12月から3年生の終わりのころまでの2年間、会長を務めました。1年生から会長を務めたので、多くの苦労もありました。当時の学友会は先輩方が全員就職活動のため引退してしまい、残ったメンバーは私を含め二人の1年生のみでした。それに加えて1月から3ヶ月、卒業式や入学式用の冊子作成、クラブ援助金の分配規程の作成など、多くの活動を行わなければならず、大変難しい状況から会長になったと言えるでしょう。またその後も、学生大会などで、実際に書いたことすら無かった資料の作成や、学生大会での司会兼進

行などで多くの苦労がありました。

それらの活動を通して、一番大変だったのは、やはり1年生の会長になった直後でした。会長になった直後は、実際、授業終了後から大学が閉まるまで、春休み中も週に2日、学友会活動を行い、とても大変でした。会長にならなければ良かった、と後悔もした事もありました。しかしそれでも学友会活動や、会長を辞めなかったのは、メンバーが二人しかない中、会長なのに辞めていいのか、という責任感と、いままでも多くのサポートしてくれた教職員の方々や友人の行為を無為にしたくはないという気持ちがあったからです。学友会を存続させることが出来た成果として、3年生の頃にはメンバーが10人を超える程にまで増え、多くの学生のための活動が出来るようになりました。

私が学友会活動を引退する頃には、1年生の学友会メンバーが中心に「ゲーム大会」を企画・運営するまでに至りました。活気あふれる学友会となったのは地道な広報活動もありですが、私の1年後に学友会に入ってくれた、後任の会長となる蔵持君の広報活動が最も大きいと思っています。この場を借りて感謝致します。そして、その活動をサポートしてくださった教職員の方々本当にありがとうございます。大学での経験を活かし、社会人として活躍できるように引き続き精進いたします。

(令和2年 経営学部 経営学科)

## 「人は失敗に学ぶ」

篠崎珠穂



東京富士大学を卒業する日が近づくとあたり自分の大学生活を振り返ると、ひたすらに失敗と試行錯誤を繰り返した4年間だったように思います。

私は、

父がイベントの会場設営等に携わる会社勤務に勤めており、自分は父が外側を作っているイベントたちのその中身について学び、誰かの感情を揺さぶるような仕事が出来たいと考えていました。東京富士大学への入学を決めたのは、座学だけでなく実際に開催されているイベントへ赴いてスタッフとして参加する「イベント現場実習」によってイベントに関する知識を身に付けることのできるイベントプロデュース学科があったからです。

しかし、このイベント現場実習が私の大学生活に様々な失敗を与え、それと同時にイベントが人々に与える笑顔の素晴らしさを教えてくれました。

初めて参加した実習では元々あがり症だったこともあり、ひどく緊張してしまい声を出せませんでした。学友たちのように動けない中、

声が小さくてもせめて笑顔絶やさないようにしようと思いがけました。そうしたところ、だんだんと緊張は解け声も出るようになり、イベントに参加した沢山の方々に笑顔を見せていただきました。その笑顔が見られた時、とても嬉しい気持ちになり、またこうしてればもっと笑顔になってくれた人がいたかもしれないと後悔しました。

それ以降の実習では、一番初めの実習での「こうしていれば」を思い出し、より多くの人に楽しんでもらえるよう参加しました。もちろん、全く緊張をしなかったわけでも、失敗をしなかったわけでもありませんでした。けれど、その度に今まで参加した実習での経験から、こうしたほうがもっと良くなると試行錯誤を繰り返しました。そうして年間200時間近く実習に参加した結果、出演者の方からも笑顔でありがとうと言っていたことができました。

東京富士大学に入学し、イベントプロデュース学科で学ぶことで、私は失敗を糧に行動することが出来る人間に成長できたと思っています。

家族をはじめ大学の先生方や友人们、今まで支えてくれた沢山の方々に感謝しております。大学を卒業し、社会人としての生活が始まっても失敗を恐れず、日々精進し皆様に恩返ししていきたいです。

(令和2年 経営学部)

イベントプロデュース学科)

## 「学びを自信に」

奥山飛雄馬



私は本  
学大学院  
経営学研  
究科を修  
了し、職  
業的専門  
家として

生涯を通して学び続けていく自信を身につけることができました。

「税理士試験に合格するためだけの勉強ではなく、自身の社会人経験を踏まえて学問に向き合うことは将来必ず自分を支える力になる。」という上司の言葉に背中を押され受験を決断しました。これまで大学院とは無縁だと思っていた私にとつて、進学は未知の領域であり言い知れぬ不安で一杯でした。しかし、それは杞憂に過ぎませんでした。

まず、大学院では全く異なる環境で多様な経験をしてきた同期と出会うことができました。各々の経験から発せられる積極的な意見や、逆に経験がないことからこそ生まれる素直な質問の数々に自分の視野が狭まっていたことや固定観念に囚われ柔軟な思考ができていない現状に気づかされました。

経営学科の講義内容は多岐に及んでいたので、既に学習したことがある内容をより深めるのみならず、新たなテーマに挑戦することでも

きました。先生方からは、各分野における知識は勿論ですが「調べ方」「整え方」「伝え方」など幅広く応用の利く、学びを具現化するためのメソッドを授かることができました。青山先生、石塚先生、小森先生、渋谷先生、土井先生、廣瀬先生、湯谷先生、大塚先生、話になりました。

そして修士論文の作成においては、自分の力量に応じた計画の重要性を痛感しました。私は構想にばかり時間をかけ、肝心の本文が書き進まない状況にありました。今思い返せば、格好の良い論文を書きたいという滑稽なプライドがあったとしても、自分には書きあげられないのではないかと筆を執る勇気が足りなかつたとも思えます。この慢心と小心の泥沼の中、指導教授である三関先生は温かく手を差し伸べて下さり、着実に丁寧に完成へと導いてくださいましたこと、感謝の念に堪えません。修士論文は無事に認定を受け、これをもって税理士の資格を取得するに至ることができました。

修士課程は修了しましたが、今後もなお職業的専門家として学び続けていく必要があります。決して易しいことではないと思います。が、本学大学院経営学研究科で学んだという自信を支えに邁進していきます。

(平成30年

大学院経営学研究科

修士課程)

## 「お世話になった すべての人に感謝」

本間裕之



私が東  
京富士大  
学大学院  
へ進学す  
ることを  
決めた動  
機は、税

理士試験の税法科目の免除のためでした。しかし、当時の私は税理士試験の勉強は経験していたのですが、税法についての学問的な知識がほとんどなく、また、仕事が忙しい時期は残業で帰りが遅くなることも頻繁にありました。大学院進学を決めたのはいいのですが、「働きながら通学可能で2年間で卒業できるのか」「基礎から論文指導をしていただけるのか」という不安を抱えていました。

そんな中、入学試験の資料を手するため本学を訪問し、「授業の時間や曜日で不都合があれば遠慮なく相談してください」「指導教授は皆経験豊富で実績もありますから大丈夫です」ととても丁寧に説明していただき、私が抱えていた不安は解消されました。

入学後は、少人数授業での討論や課題の発表など戸惑いもありましたが、2年間で知識や自分のできる力・伝える力が身についたと実感しています。修士論文につ

は、1年次は当初の計画通りには進まず、研究テーマを絞って関連資料を収集するのみという状況でしたが、指導教授である渋谷先生とゼミの場で議論を重ね、助言をいただいていたうちに、徐々に方向性が定まってきた軌道に乗せることができました。

修士論文の執筆は働きながらということもあり、主に平日の夜と休日の空いている時間で行いましたが、なかなか思うように進まず苦労しました。それでも最後まであきらめず、修士論文を書き終えることができたのも渋谷先生の丁寧な指導のお陰であると感謝しております。また、論文指導や授業でお世話になった湯谷先生、三関先生、石塚先生、要望を色々聞いてくださった青山先生、井原先生、職員の方々にも感謝しております。仲間達にも恵まれ、2年間ともに同じ目標に向かって努力できたことは、私の大学院生活をとても有意義なものにしてくれました。

本学の大学院で過ごした2年間は、私にとつて貴重な財産となりました。今後は、さらなる目標に向かって努力していきたいと思っております。本当にありがとうございます。

(令和2年

大学院経営学研究科

修士課程)

# 校友会総会 講演会報告

落語 入船亭扇里 師匠

## 「落語二題」

報告者 八城夫

令和元年六月十五日（土）午後一時、出囃子の笛と太鼓の音に乗って入船亭扇里師匠が大学の即席高座に登壇し「落語二題」と称して次のような演目を演じていただきました。

### 「お菊の皿」

番町皿屋敷の怪談で知られる女中お菊の幽霊を見たいと考えた物好きな数名が、怪談の舞台である



番町の廃屋敷まで出掛けてゆく。

果たして廃屋敷の井戸端にお菊の幽霊が現れ、恨めしそうに「一枚、二枚…」と皿を数え始めた。お菊の幽霊は恐ろしいが、とても美しい。数える声を九枚まで聞くと狂い死にすると言われているので、見物人たちはお菊が六枚まで数えたところで逃げ帰る。

美しい幽霊お菊の噂が広まり、翌日はより多くの者がお菊を見に行く。そして見物人の数は日ごとが増えて行く。やがて周りで弁当や菓子を売る者が現れ、さらに興行主が現れてこれをショーとして興行化し、井戸のまわりに客席が設けられ廃屋敷は芝居小屋のようになり、「お菊の皿数え」は舞台演芸のようになっていく。幽霊のお菊も客に愛嬌を振りまくようになる。

今日もお菊の皿数えの上演があり、お菊は喝采を浴びて登場し、「一枚、二枚…」と皿の枚数を

数え出す。お菊が六枚目を数えたところで客たちは逃げようとすがるが、客席が混雑していて逃げられない。ついに聞けば死ぬと言われている九枚目をお菊が数えた。しかし何も起こらず、お菊は「十枚、十一枚…」と皿を数え続ける。客たちが呆気にとられる中、十八枚まで数えたところで舞台は終わりとなった。

「なぜ十八枚まで数えたんだ」と客がお菊に尋ねると、お菊は「この毎晩じゃあかなわないからね、明日はお休み、その分まで」と答える。

### 「叩き蟹」

日本橋の袂にある餅屋に、子供が餅を盗もうとしたところを、その主人に取り押さえられてしまった。親が居たら出てくるように言っているが、誰も名乗り出ない。そこに旅人が野次馬の輪の前に出たかったので、親のふりして前に出た。折檻するのは可哀相だと掛け合うことになった。

子供の話を聞くと、子供の親は大工で、仕事場で怪我をしてそこから毒が入って身体が動かなくなりました。おっ母さんは子供を産んで体調崩し寝たつきりになってい

る。兄弟の中で年上だから近所の使いつわりをして食いつないでいたが、その仕事もこのところ無かった。水ばかり飲んでいたので、この前を通ると美味しそうなので、つい手が出てしまった。

「親孝行でも他人の物は盗んではいけないよ」「分かった」「おじさんが一緒に謝ってあげよう」。

「自分の子供は可愛いが、他人の子は憎いか?」「けじめを付けるんだ」「だったら、一切れ餅をあげなさい。家に持って帰れば両親は床から出て、手を合わせて感謝するよ。病気が治るかも知れない」「そんな坊主みたいな事はヤダね」「では、私が勘定を払ったらお客だね」「誰が払ったって客だ」「では、さっさと持つて来い」。

「自分が食べたくて、手を出したんじゃないから、食べたくない」「両親と兄弟の分は後で用意する。食べなさい」子供は三皿食べて、お土産を七皿分包ませて百文になった。しかし、その百文が無かった。そのカタ（担保）に小半刻でカニを彫って、名も告げずに立ち去った。

駄作だと思って貰い手もないカニを、主人は煙管で悔し紛れに甲羅を叩いた。つ・つ・つ……と横に這っ



ていった。何回やつても這つていく。俺にも叩かせると行列が出来た。一皿買って叩き、店は大繁盛。二年後、カニを彫った旅人が店にやつてきた。百文返して、あのカニは餅屋にあげた。あのときの坊やの消息を聞いた。

「チョット、お待ち下さい。吉公(よしこう)こつちに来な」「へーい……、あッ！カニのおじさん」。

「両親は元気か」「……あの時、

餅屋のおじさんが家に見舞いに来てくれたんです」「私からも、礼を言うぞ」「行く」と、医者にも診せていないというので、診せるとお袋さんは直ぐ治りましたが、お父つつあんの方は手遅れでした……。その為、この吉公がここで修行したいと言い出して、今では一人前になって、あつしも楽が出来るようになりました(情は人の為ならず)。これも、みんな貴方様のお陰です」。

「お父つつあんは大工だったよね。どうして後を継がなかったんだい」「ん、お父つつあんの死に様を見ていたから……、今、餅屋で修行しているの。おじさん甚五郎でしょ。お父つつあんなが言っていたよ名人だつて」「どの道も同じだよ。魂を込めることだ」「私の作った『切り餅』と『黄金餅』食べてくれない」「いいよ。持って来な。これが『黄金餅』か。二年ぶりだな……。うん、旨いよ」「嬉しいな。切り餅も食べてくれない

かな。どつさり切ってきたから」「全部は食べられないか……、繋がっているぞ。まだ修行が足りないぞ」「スィマセン。包丁持ってきます」。

これを聞いていたカニが、横につつ・つと這つてきて……、「両手の指を鉄の形にして」使ってくださいな」。

おまけにもう二題

「開帳の雪隠」

老夫婦が寺院の参道で茶屋を営んでいました。その寺院で行われる出開帳(でかいちやう)(ある寺院の仏像を他の寺院に出張して公開すること)の際、境内は多くの人で込み合うため、雪隠(せつちん)「トイレ」を借りに来る人がいる。そこで店番のお婆さんは、お客でもない人が借りに来たなら料金を貰うこととしました。

お婆さんのもくろみは見事に当たり、数日間は大儲けとなったが、ある日を境に客足が急減しました。お爺さんが寺院の方へ見に行くと、寺院の近くに商売敵ができて、同じ値段で、こつちより設備が清潔で上等だったのです。ふたりはあわて、呼び声を「雪隠はこです」などと直接的にしたり、「元祖雪隠」という看板を出してみたりし

たが、効果がありません。突然、お爺さんが「ひとりで番をしていてくれ」とお婆さんに言い残し、どこかへ行ってしまう。しばらくすると、少しずつ客足が戻り始め、はじめのように稼げるようになり、お婆さん一人忙しいのに、お爺さんはどこへ行ってしまったのだろう。

日が暮れ、参拝客がいなくなるところ、お爺さんが戻ってきました。お婆さんは「どこへ行っていたんだい。私ひとり多数の客をさばき、大変だったのよ」というと、お爺さんは「むこうの雪隠で、日暮れまでしゃがんでた」という。

師匠曰く、最近は噺家が多くて、このような楽しい落語も披露する場所がない。そこで、高円寺のレコード屋さん、武蔵小杉のカレー屋さん、仙台の居酒屋さんと駄菓子屋さん、藤沢のラーメン屋さんなどでもやりました。十五人程度の少人数でもやります。興味があられる方は是非お声をかけてください。

営業も忘れていない、しっかり者の師匠でした。

(昭和49年 経済学科二部)  
(平成16年 経営学部夜間主)

## 東京富士祭 校友会研究会報告 「鳩吹山からマッターホルンへ」

— 話し手 梅田一人 —

令和元年10月27日(日)東京富士祭の校友会公開講演会に『雄峯』第57号で紹介させていただいた梅田一人氏にご登壇いただきました。以下はお話の概要です。

梅田氏のお住まいは、岐阜県可児市です。人口10万人ほどの岐阜県中南部にある市で、木曾川南岸に位置します。

最近では高齢者の登山人口が増加し



ソルバイ小屋にて

ているようですが、皆様は山の関心度はどのくらいでしょうか。

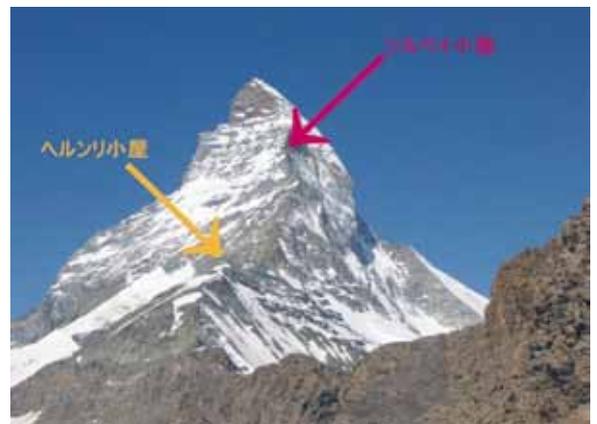
日本で一番高い山や世界で一番高い山はご存知のことと思いますが、その標高や二番目・三番目に高い山の名前は意外にご存じないようです。

日本で一番高い山は、富士山(3,776m)二番目は南アルプスの北岳(3,193m)三番目は北アルプスの奥穂高岳(3,190m)最近では南アルプスの間ノ岳(3,190m)も第三位です。世界で一番高い山はエヴェレスト(8,848m)二番目がK2(8,611m)三番目はカンチエンジュンガ(8,586m)です。

また、エヴェレストの入山料は百万円と高く、マッターホルンは無料です。なお富士山は任意ですが千円で。最近の山の話題としては、昔エアーズロックと呼ばれた山は登山禁止になりました。

さて、富士短期大学に入学し、ヨーロッパの山に登りたかったのでワンダーフォーゲル部に入部しワンゲル9期生となりました。その時の顧問の先生が早坂忠博先生でした。

部活の思い出では、新入生で男性は二人だけ、あとは女性なので十人用の



マッターホルン登山ルート

重いテントを背負わされて苦労しました。それから屋久島に行きましたが、鹿児島まで急行で一日がかりで行き、そこからフェリーに乗って島に着き、海抜0mから登るので大変でした。

ワンゲルに入部して人生が大きく変わりました。理由は妻とワンゲル部で知り合い、卒業してから見染められて結婚いたしました(私の旧姓は中村です)。

残念ながらワンゲル部は17期で廃部となつてしまいましたが、ほたび会(OB会)として現在まで続いています。

卒業後も山に登り続けていたのですが、30代半ば頃、仕事中に怪我をして右目を失明したので、距離感がないのが心配で、しばらく山から離れていました。何十年も登っていないのですが、それでももう一度登りたい

気持ちはありません。そこで、住まいから近く簡単な山から行ってみようかと、鳩吹山(313.3m)に登ってみました。鳩吹山は30分ほどで登れる小さな山です。そこで少し自信をつけ、北アルプスや南アルプスに行くようになりました。

早坂先生につきましては、ほたび会の仲間がアメリカにいたので、早坂先生ご夫妻とワンゲルの仲間たちと向こうの山を観光しようと出かけました。先生は歌が好きで「第九」を歌う会に入つて歌っていました。

62歳の時の2017年8月7日にマッターホルンを登りました。帰って来て早坂先生に報告したら『雄峯』に寄稿を奨められ、随分添削をしていただきましたが、今年6月に他界されとても残念です。そんなご縁で本日常様の前でお話をさせていただくことになりました。

マッターホルンの山頂はイタリア側(4,476m)とスイス側(4,478m)があり、私はスイス側の山頂を登りました。

マッターホルンに登るには、アタック前に岩場の登はん・雪上歩行などのトレーニングをしなければなりません。前日にテスト登山をしてガイドが大丈夫と判断すれば登山ができます。

マッターホルンの登山には時間制限があり、外国人のガイドは時間に厳しいので途中で降ろされてしまうそうです。ガイドがいないとルートが分からず登れません。

ヘルンリ小屋からソルベイ小屋（避難小屋）まで2時間30分の時間制限があるので多少の融通の利く日本人のガイドを探してお願いしました。

初めてのアルプスでマッターホルンを登るのは無謀だと言われました。私はギリギリの2時間30分かかりました。頂上の下に聖ベルナルの像が見えた時「ああ登れたな」と思いました。

マッターホルン登山は日帰りです。ヘルンリ小屋を朝4時半に出発しました。当日は約百人ほどが出発しました。登り下り各5時間で、合計10時間程です。普通は登りの時間が長く、下りの方が短いのですが、マッターホルンは下りのルートが難しく時間がかかり



山頂近くの難所

野口健氏は「生きるために登る」と言います。私の場合は…この質問は一番難しい質問です。

山を登っているときは、何も考えず、集中してただ黙々と登る。そういうところがないのかなと思います。

これから登ってみたい山は。アフリカのキリマンジャロ（5,895m）を登ってみたいと思っています。

また、ロングトレイル（登山道やハイキング道、自然散策路、里山のあぜ道、ときには車道などを歩きながら、その地域の自然や歴史、文化に触れることができる）をやってみたい。

ます。

下山途中3時間程経った時に、疲れから足がもつれ躓いて前のめりに倒れてしまいました。ガイドがザイルで止めてくれましたが、命拾いをしました。しばらく動けませんでした。が、気力を振り絞って立ち上がり、体は痛かったけれど何とか小屋に着いたときはホッとしました。

マッターホルンは、見て良し、登って良しですが、多少の技術と体力を付ければ登れると思います。それほど難しい山だとは思いません。同時に登った同年輩の二人の女性のうち一人は私より先に登り切りました。一番のポイントでは天候に恵まれることです。

なぜ山に登るのか？と聞かれますけれど、ジョージ・マローリーは「そこに山（エヴェレスト）があるから」と言いました。

—記者が書いたという噂もあります—



東京富士祭講演会を終えて（梅田氏は前列左から5人目）

アメリカが発祥の地でもて人気があり「ジョン・ミューア・トレイル」というところは、抽選に当たらないと入れないそうです。

最後に私の好きな詩、サミュエル・ウルマン（1840～1924）ドイツ出身でアメリカの詩人の「青春」の二節を紹介させていただきます。

青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。歳月は皮膚のしわを増すが情熱を失う時に精神はしぼむ…

詩はもつと長いのですが、情熱を失わず心を若く持つていけば、いつまでも青春だと信じて生きていきたいと思っています。

質疑応答があり、トレッキングについて、マッターホルンのフィックスロープについて、この山行に掛かった費用などの質問がありました。

①トレッキングについて、今回はマッターホルンに登るといふ目標があったので、近所の鳩吹山で同じ所を二回登るとか、荷物の中に2ℓの水を入れたペットボトルを5本くらい背負ったりして体力を養いました。自分に負荷をかけた辛いトレッキングを克服することとは、仕事をするときにも粘り強い忍耐力として役立ちます。

②マッターホルンの難所にあるフィックスロープについては、太さが直径5cmくらいあるナイロン製のものです。結構太いので切れることはありませんが女性の方には握りにくそうです。また、地元のガイド協会が何年か毎に交換メンテナンスをしているそうです。

③この山行に掛かった費用は、マッターホルンだけでしたら、中東の安い航空機を使って、ガイド料が4日間で10万円ほど、全体で50～60万円程度だと思えます。モンブランですとガイド一人に客が二人ですが、マッターホルンはガイドと客は二対です。

④そのほか、山のトイレ事情、ご夫婦での山行などの質問がありました

（報告者 八城二夫）

# 会計人会の活動報告

会長 若狭茂雄

平成22年に東京税理士会の租税教育に資するための寄付講座を税理士OB・OGの先生方が3年間引き受けてくださったことにより、本学に相応の助成金を東京税理士会からいただきました。実はこれには講座終了後も何らかの形で租税教育を継続してほしいということが実質的な条件となっておりましたが、何等かの都合で実現しませんでした。その代わりといつてはなんですが、これまで開催してきた判例研究会を会計人会の税理士OB・OGと大学院生を含めた判例研究会として引き続き行うことで、東京税理士会の主旨に応えてきております。

また、昨年東京税理士会より新たに租税教育講座の開催要請があり、今年4月から7月にかけて学生に税理士の魅力と挑戦を呼びかける講義を14回に分けて行うこととなっております。協力くださいますOB・OGの会計人会員に期待しています。

## 平成31年(令和元年)度活動報告

(1)判例等研究会  
判例等研究会は、毎月第三水曜日の午後6時30分～7時40分です。会場は、本館「階メデアホール」向第2会議室です。  
平成31年4月17日(水)

報告者 石塚一彌 会員

テーマ「外れ馬券の必要経費該当性に関する最高裁判例」  
令和元年5月22日(水)

報告者 奥山飛雄馬 会員

テーマ「税務上の生命保険等の取り扱い」  
令和元年6月19日(水)

報告者 米田敏子 会員

テーマ「役員が横領行為をした金員は役員給与か否か」  
令和元年7月17日(水)

報告者 新実大志 会員

テーマ「中小企業を取り巻く税制と会計基準について」  
令和元年9月25日(水)

報告者 若狭茂雄 会員

テーマ「成年後見人のある相続人と遺産分割協議書作成時の他の相続人との問題点等」  
他の相続人との問題点等」  
令和元年10月16日(水)

報告者 高橋節男 会員

テーマ「損害保険等の実務における事例と問題点」  
令和元年11月20日(水)

報告者 八城一夫 会員

テーマ「租税法における親族の扶養義務について」  
令和元年11月20日(水)

報告者 東京富士大学会計人会

第9回 定期総会報告  
令和元年12月18日(水)

報告者 岩下忠吾 会員

テーマ「税理士先生方の相談実例で皆さんに役に立つ情報」  
研究終了後7時50分より、豊後高田とり酒場において忘年会を開催しました。湯谷教授、石塚教授が参加され、井上和子会員他13名の参加で盛り上がりました。(会計人会11名、大学院生3名、教授2名)

令和2年1月22日(水)

報告者 後藤孟司 会員

テーマ「社会福祉の今日的課題と  
は「社会福祉の理論と実際について」」  
令和2年2月21日(金)

報告者 土風炉高田馬場駅前店にて、  
午後6時より2時間開催。

税理士合格者祝賀会

令和2年2月21日(金)

報告者 森川昇

令和2年2月21日(金)

## 雄峯マネジメント研究会活動報告

事務局 森川 昇

我々の会は、年4回、3カ月毎に例会を開いています。事業年度は6月1日から翌年5月31日まで1年間であります。

まず、6月に総会があり、9月、12月、2月の第1金曜日に例会を開いて、会則第2条にあるマネジメントの研究を中心に、会員の交流で親睦と情報交換を図っています。

今年の活動報告ですが、6月7日(金)前年に引き続き母校を

税理士合格者、科目合格者、判例研究会は8月、2月、3月お休みです。

(2)他の大学会計人会との交流  
他の大学会計人会の開催する定期総会等に参加して、交流を深めました。

(3)全国大学会計人サミット参加  
2019年度は、横浜ランドマークタワー25階にて「AI時代における会計税務監査の未来」をテーマに開催され、当大学から5人参加し、他の大学会計人会の会員も大勢あつまり盛大に開催されました。

2020年度は小樽商科大学にて開催予定です。

(昭和41年 経済科二部)  
(平成16年 経営学部夜間主)

訪れ、校友会室をお借りして定時総会を開催した。第1部が総会、第2部が懇親会と2部構成でおこないました。

第1部の定時総会は、①平成30年度事業報告承認の件 ②平成30年度収支決算報告承認の件 ③令和元年度事業計画承認の件 ④役員改選の件が審議され、いずれも原案どおり承認可決されました。役員改選では現会長の松原会員の続投を満場一致で決めま

した。

第2部は場所を移して「清龍」で懇親会をおこないました。

令和元年9月6日(金)の例会では、「働き方改革」をテーマに出席会員によるディスカッションをおこないました。主な内容は、トップ主導でやらないと中々変わらない。

労働生産性を上げる。職場環境の改善。病気になっても休める体制などいろいろな意見が出ました。

令和元年12月6日(金)の例会は忘年会を銀座の「サキホールヒビヤバー」でおこないました。この店は、日本酒好きな人にはたまらないお店でした。

令和2年2月7日(金)の例会は、9月の例会に引き続き「働き方改革」をテーマに、「CS」「ES」をについて意見交換を行いました。主な内容は、従業員を大事にしない会社は成長しない。従業員を会社の財産だと考える企業が成長する。定着率でその企業の将来が分かるなどいろいろな意見が出されました。引き続き、会員を募集しています。

マネジメントに関心、興味のある方は左記にご連絡ください。

事務局 森川 昇  
〒328-0001  
栃木県栃木市大宮町2284-68  
TEL&FAX 0282-27-5480  
(昭和47年 企業経営学科二部)

## 少林寺拳法部雄峯会

会長 本間玲次

二〇一九年(令和元年)の活動状況について報告させていただきます。

今年度は現役学生が卒業したのでも、昨年に引き続き学生の勧誘に努め、オリエンテーションでは雄峯会のメンバーを動員して説明を行いました。入部希望者として五名の署名があり、次の練習日に一名見学にきたので説明を行いました。良い感じで帰られたので間違いなく入部いただけると皆で喜んでいたので、残念ながら次回以降の練習日は顔を見せず、結果として今年も入部者がなく、現役0名。



秋季合宿(秩父・長若山荘)

雄峯会々員七名(十名で、毎週木曜日、本館地下武道場にて二年間練習を行うことになりました。今年度の活動状況について、日を追ってご報告いたします。

①四月二十七日(二十八日の二泊二日、春の合宿を例年通り秩父にて行いました。

②六月九日、関東学生OB同好会創設三〇周年記念行事が行われました。

③六月十五日、校友会総会が行われ出席しました。

④九月二十八日(二十九日の二泊二日、秋の合宿を秩父にて行いました。

合宿の前に秩父市小鹿野町で豚コレラの報道があり心配したのですが、案の定、合宿所の近くの養豚場で、九月二十九日に三八頭を殺処分したそうです。

⑤十月二十七日、東京富士祭にて少林寺拳法部雄峯会による演武会を開催、団体・組演武を披露しました。

⑥十一月十五日(十六日の二泊二日、OB秋の旅行会を奥多摩方面にて実施しました。今年は大台風・大雨等災害の多い年でしたので、心配した通り、奥多摩方面も寸断されている道路があり、見学したいところを全部回ることが叶いませんでした。初日は青梅駅より車三

台に分乘し、御岳山の「御岳神社」を参拝。この神社は標高九二九メートルの御岳山頂にあり、武蔵国を守ってきた天空の神社で、古くから関東の霊山として自然を敬う関東一円の人々から信仰されてきた社です。崇神天皇七年(紀元前九二年)に創建され、天平八年(七三六年)に行基が蔵王権現を勧請したそうです。その夜は、かんぼの宿「青梅」に宿泊、総会として部の近況と会員の情報等を話した後、参加者二名で痛飲しました。翌日も天候に恵まれ、奥多摩湖の小河内ダムを見学。昭和三十二年に完成したこのダムは、都民の貴重な水がめであると共に多くの方々の憩いの場として親しまれており、水道専用としては国内最大のダムとのことでした。

⑦十一月十六日、少林寺拳法部関東学生OB連合会の「第二十五回OB・現役懇親会」が開催されましたが、旅行日と重なったため欠席しました。

⑧十二月七日、例年通り、新橋「新橋亭」にて令和元年の忘年会を開催、二〇二〇年・子年開催のオリンピック・パラリンピックを楽しみに、今年最後の集まりとしました。

以上、活動状況をご報告させていただきます。

本年度も、毎週木曜日日本館地下武道場にて練習をしておりますので、お時間のある時には是非道場に顔を出していただければ幸いです。お待ちしております。

(昭和41年 経済科二部)

## 2019年度 学園行事

### ●4月

入学式 (4/3 二上講堂)  
教員懇話会 (4/10)

オリエンテーション (4/4~11)

### ●5月

第51回東京都大学ソフトボール連盟春季リーグ戦(1部)

(4/13~5/5 東京富士大学日高総合グラウンド・  
福生市営野球場・早稲田大学所沢グラウンド)

東京富士大学 1・7 日本体育大学

東京富士大学 1・0 日本女子体育大学

東京富士大学 2・3 国士館大学

東京富士大学 1・3 早稲田大学

東京富士大学 6・7 東京女子体育大学

リーグ戦1勝4敗5位通過(特別レギュレーション)  
特別レギュレーション (福生市営野球場)

第1戦

東京富士大学 5・0 日本女子体育大学

第2戦

東京富士大学 0・1 早稲田大学

春季リーグ戦最終順位 4位

2019年度関東学生新人卓球選手権大会

(5/3・4 座間市市民体育館)

女子ダブルス ベスト16

近藤愛香(経営学部1年生)・大和田凜

(経営学部1年生) 組

千葉菜月(経営学部1年生)・宮田保野花

(経営学部1年生) 組

2019年度春季関東学生卓球リーグ戦(1部)

(5/10~17 所沢市民体育館・港区

スポーツセンター)

東京富士大学 1・4 早稲田大学

東京富士大学 0・4 中央大学

東京富士大学 2・4 専修大学  
東京富士大学 1・4 青山学院大学  
東京富士大学 4・1 大正大学  
東京富士大学 4・1 日本大学  
東京富士大学 4・0 日本体育大学

3勝4敗 4位

創立記念日 (5/17)

### ●6月

高田奨学生授与式 (6/14)

学生大会 (6/17)

2019年度関東学生卓球選手権大会

(6/6~8 和光市総合体育館)

女子シングルス

3位 松岡優香(経営学部2年生)

ベスト8 千葉菜月(経営学部1年生)

ベスト16 リナン(経営学部2年生)

女子ダブルス

3位 小村歩未(経営学部4年生)・

島山ひなの(経営学部2年生) 組

3位 松岡優香(経営学部2年生)・

千葉菜月(経営学部1年生) 組

第8回東アジアカップ(6/12~17中国広東省中山市)

代表 黒木美紀(経営学部4年生)

参加国(日本、中国、チャイニーズタイペイ、韓国)

予選リーグ 1位 4勝0敗

決勝トーナメント 全勝 2勝0敗

日本チーム優勝

### ●7月

第89回全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)

(7/4~7 愛知県豊田市スカイホール豊田)

ベスト32

第34回東日本大学女子ソフトボール選手権大会

(7/5~7 長野県伊那市)

1回戦

東京富士大学 3・6 城西大学

●8月  
春学期本試験 (7/29~8/2)

●9月  
第54回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

(8/30~9/1 愛知県安城市)

1回戦

東京富士大学 4・7 同志社大学

2019年度秋季関東学生卓球リーグ戦(1部)

(9/4~13 港区赤土センター・和光市総合体育館)

東京富士大学 4・3 日本大学

東京富士大学 3・4 専修大学

東京富士大学 4・2 日本体育大学

東京富士大学 4・3 筑波大学

東京富士大学 0・4 早稲田大学

東京富士大学 1・4 中央大学

東京富士大学 1・4 青山学院大学

3勝4敗 5位

第51回東京都大学ソフトボール連盟秋季リーグ戦(1部)

(9/14~28 東京富士大学日高総合グラウ

ンド・早稲田大学所沢グラウンド他)

東京富士大学 0・2 早稲田大学

東京富士大学 2・3 東京学芸大学

東京富士大学 1・0 日本体育大学

東京富士大学 6・2 国士館大学

東京富士大学 1・2 東京女子体育大学

2勝3敗 4位

### ●10月

第74回国民体育大会 卓球競技(9/28~10/2 茨城県)

ベスト8 前田早貴(経営学部3年生 福岡県代表)

出場 小村歩未(経営学部4年生 高根県代表)

出場 菊地実佳子(経営学部3年生 秋田県代表)

出場 星美咲(経営学部3年生 福島県代表)

出場 島山ひなの(経営学部3年生 青森県代表)

出場 松岡優香(経営学部2年生 熊本県代表)

防災訓練 (10/17 中庭キャンパス)

第86回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)

(10/24~27 京都府・島津アリーナ京都)

女子シングルス

3位 松岡優香(経営学部2年生)

女子ダブルス

ベスト16 小村歩未(経営学部4年生)・

島山ひなの(経営学部3年生) 組

松岡優香(経営学部2年生)・

千葉菜月(経営学部1年生) 組

第50回関東大学女子ソフトボール選手権大会

(10/26~28 埼玉県戸田市)

1回戦

東京富士大学 11・4 白鷺大学

2回戦

東京富士大学 0・5 山梨学院大学

第54回東京富士祭(10/26・27・28)

1日目 模擬店・展示発表・カミサカブ

プロジェクトワークショップ・足湯・縁日・軽音楽部ライブ・

アンフラクト同好会ライブ・抽選会・新日本書道書

友会「関東展」

2日目 模擬店・展示発表・足湯・縁日・

校友会主催福島復興支援物産展・校友の広場・

少林寺拳法部雄峯会演武会・校友会公開講演会・

ステージ・空手道部演武会・軽音楽部ライブ・ダンス

同好会発表会・抽選会・新日本書道書友会「関東展」

3日目 スキーツェンパル(ソフトボールドジョル)

●11月  
第16回全日本学生選抜卓球選手権大会

(11/23~24 埼玉県・所沢市民体育館)

女子シングルス

ベスト8 松岡優香(経営学部2年生)

出場 リナン(経営学部2年生)

●12月  
ゼミ発表大会 (12/5)

学生大会 (12/16)

### 2019フィナンランドオープン(12/2〜10 フィンランド)

日本代表 松岡優香(経営学部2年生)  
女子団体 優勝 日本1チーム(松岡優香)  
女子シングルス 3位 松岡優香  
令和元年度会長杯争奪卓球大会(12/14・15 駒沢屋内競技場)  
女子シングルス

優勝 前田早貴(経営学部3年生)

ベスト8 菊地実佳子(経営学部3年生)

ベスト8 星 美咲(経営学部3年生)

女子ダブルス

ベスト8 菊地実佳子(経営学部3年生)

大和田凜(経営学部1年生) 組

ベスト8 星 美咲(経営学部3年生)

宮田保野花(経営学部1年生) 組

ベスト8 田添莉奈(経営学部3年生)

藤井祐衣(経営学部3年生) 組

### 令和元年度日本卓球選手権大会(1/13・19 丸善インテリテック大阪)

小村歩未(経営学部4年生)

女子シングルス出場

老松美空(経営学部4年生)

女子シングルス出場・女子ダブルス出場

前田早貴(経営学部3年生)

女子シングルス出場・女子ダブルス出場

菊地実佳子(経営学部3年生)

混合ダブルス出場

藤井祐衣(経営学部3年生)

混合ダブルス出場

島山ひなの(経営学部3年生)

女子ダブルス出場

松岡優香(経営学部2年生)

女子シングルス出場

千葉菜月(経営学部1年生)

女子シングルス出場

秋学期本試験(1/27〜31)

学生活動奨励賞授与式(1/31)

### 第45回浮舟杯卓球大会(2/7〜9 南相馬市)

一般女子団体 2位 東京富士大学  
一般女子シングルス

2位 千葉菜月(経営学部1年生)

3位 松岡優香(経営学部2年生)

2019年度神奈川卓球選手権大会

(2/23・24 横浜国際ブルースポーツフロア)

女子団体 3位 東京富士大学

### 3月

学位記授与式(3/20 二上講堂)

## 令和元年度校友会事業計画

自 平成31年4月1日  
至 令和2年3月31日

### 1 本年度実施する主な事業

1 講演会開催

日時 令和元年6月15日(土)  
13時30分〜15時00分

場所 東京富士大学本館1Fメディアホール

落語 入船亭扇里 師匠

「落語一題」

2 総会開催

第70回定期総会開催

日時 令和元年6月15日(土)

15時10分〜16時30分

場所 東京富士大学本館1Fメディアホール

議題 I 平成30年度事業報告承認の件

II 平成30年度収支決算書承認の件

III 平成31年度事業計画(案) 承認の件

IV 平成31年度収支予算(案) 承認の件

V 役員改選の件

3 懇親会

日時 令和元年6月15日(土)

17時30分〜19時30分

場所 新宿プリンスホテルB2F「ブリック」

会費 6000円

4 研究会開催

日時 令和元年10月27日(日)  
13時30分〜15時30分

場所 東京富士大学 五号館532教室  
講師 梅田一人氏(東京富士大学OB会)

「ほたび会」所属

演題 「マッター・ホルン登頂者に聞く」

5 福島県復興支援物産展

日時 令和元年10月27日(日)

10時00分〜15時00分

場所 東京富士大学 五号館前アプローチ

6 会報の作成と配布

会報「雄峯」58号1000部を作成し、

新会員及び会員並びに学校に配布

7 会員名簿の作成

全会員名簿の整理と変更等のメンテナンス

8 入会記念品の配布

新会員に記念品を配布

9 支部・支会の助成及び育成

10 学生行事への助成と交流

11 その他

## 令和元年度校友会行事録

4月3日

入学式(二上講堂)

4月16日

会計監査(校友会室)

1 平成30年度会計監査

4月23日

常任理事会(校友会室)(18時〜)

1 平成30年度校友会事業報告及び収支決算について

2 監査報告平成31年度校友会事業計画(案) 及び収支予算書(案) について

3 定期総会の講演会について

4 役員改選の件

5月15日

委員会・理事会(校友会室)(18時〜)

1 平成30年度校友会事業報告及び収支決算について(監査報告)

2 平成31年度校友会事業計画(案) 及び

収支予算(案) について

3 定期総会の講演会について

4 役員改選の件

6月15日

第70回定期総会

講演会(13時30分〜15時00分)

会場 東京富士大学本館1Fメディアホール

落語 入船亭扇里 師匠

「落語一題」

総会(15時10分〜16時30分)

会場 東京富士大学本館1Fメディアホール

1 平成30年度事業報告承認の件

2 平成30年度収支決算承認の件

会計監事 監査報告

3 平成31年度事業計画(案) 承認の件

4 平成31年度収支予算書(案) 承認の件

5 役員改選の件

懇親会(17時30分〜19時30分)

会場 新宿プリンスホテルB2F「ブリック」

7月11日

常任理事会(校友会室)(18時〜)

I 第54回東京富士祭における事業の件

II 役員改選の件

10月27日

東京富士祭 校友会公開講演会

(13時30分〜15時30分)

場所 東京富士大学 五号館532教室

講師 梅田一人氏(東京富士大学OB会)

「ほたび会」所属

演題 「マッター・ホルン登頂者に聞く」

東京富士祭 福島県復興支援物産展

日時 令和元年10月27日(日)

10時00分〜15時00分

場所 東京富士大学 5号館前アプローチ

3月20日

学位記授与式(二上講堂)

平成30年度校友会特別会計収支決算書 自平成30年4月1日 至平成31年3月31日

特別会計財産目録

1. 収入の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	比較増減	摘要
1. 繰入額	0	0	0	
2. 預金利息	1,000	335	△ 665	
3. 賛助寄付収入	0	1,475,000	1,475,000	
4. 他会計振替	0	4,598	4,598	
計	1,000	1,479,933	1,478,933	

1. 預貯金 (単位:円)

種類	金額	金融機関名等	摘要
現金	633	現金手許有高	
定期預金	5,111,298	三菱UFJ銀行・高田馬場支店	
振替貯金	1,467,994	東京貯金事務センター	
計	6,579,925		

2. 支出の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	比較増減	摘要
1. 賛助寄付諸費用	0	11,604	11,604	郵便振替手数料他
2. 一般会計繰入金	1,000,000	1,000,000	0	
計	1,000,000	1,011,604	11,604	

上記の通り報告します。平成31年4月9日  
東京富士大学校友会会長 森川 昇  
上記監査の結果相違ないことを認めます。

平成31年4月16日

会計監事 清水かほろ

同 松原あさ

3. 特別積立金累計額 6,579,925 円

平成31年度 東京富士大学校友会一般会計収支予算書(案)

自平成30年4月1日 至令和2年3月31日

1. 収入の部 (単位:円)

項目	今年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
1. 前年度繰越金	635,772	743,377	△ 107,605	前年度繰越金
2. 入会金	765,000	730,000	35,000	入会金 @5,000×153名
3. 会費	765,000	730,000	35,000	会費 @5,000×153名
4. 特別会計繰戻金	1,000,000	1,000,000	0	
5. 雑収入	100,010	100,010	0	
(1) 預金利息	10	10	0	
(2) その他	100,000	100,000	0	御祝金
計	3,265,782	3,303,387	△ 37,605	

2. 支出の部 (単位:円)

項目	今年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
1. 総務費				
(1) 会議費	300,000	300,000	0	総会、理事会、委員会等
(2) 事務費	30,000	30,000	0	
(3) 通信費	450,000	1,050,000	△ 600,000	総会通知等
(4) 印刷費	300,000	300,000	0	総会関連印刷費
(5) 備品費	0	0	0	
(6) 慶弔費	100,000	100,000	0	卒業祝金等
(7) 入会記念品費	0	0	0	
総務費支出計	1,180,000	1,780,000	△ 600,000	
2. 事業費				
(1) 研究会費	100,000	100,000	0	東京富士祭
(2) 会報作成費	1,000,000	1,000,000	0	『雄峯』第58号
(3) 会員名簿作成費	60,000	60,000	0	会員名簿メンテナンス
(4) 通信費	60,000	60,000	0	研究会案内 他
事業費支出計	1,220,000	1,220,000	0	
3. 助成金				
(1) 支部活動助成金	60,000	60,000	0	福島県支部・岩手県支部
(2) 支会活動助成金	80,000	80,000	0	少林寺雄峯会・雄峯MGT研究会・会計人会
(2) 学生活動賛助金	80,000	50,000	30,000	東京富士祭
助成金支出計	220,000	190,000	30,000	
4. 予備費	645,782	113,387	532,395	
支出の部合計	3,265,782	3,303,387	△ 37,605	
次年度繰越金	0	0	0	
計	3,265,782	3,303,387	△ 37,605	

平成31年度 校友会特別会計収支予算書(案)

自平成31年4月1日 至令和2年3月31日

1. 収入の部 (単位:円)

項目	今年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
1. 繰入額	0	0	0	
2. 預金利息	1,000	1,000	0	
3. 賛助寄付収入	150,000	0	150,000	
計	151,000	1,000	150,000	

2. 支出の部 (単位:円)

項目	今年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
1. 賛助寄付諸経費	4,000	0	4,000	
2. 一般会計繰入金	1,000,000	1,000,000	0	
計	1,004,000	1,000,000	4,000	

3. 特別積立金累計額 5,726,925 円

平成30年度 東京富士大学校友会一般会計収支決算書

自平成30年4月1日 至平成31年3月31日

1. 収入の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	比較増減	摘要
1. 前年度繰越金	743,377	743,377	0	前年度繰越金
2. 入会金	730,000	730,000	0	入会金 @5000×146名
3. 会費	730,000	730,000	0	会費 @5000×146名
4. 特別会計繰戻金	1,000,000	1,000,000	0	
5. 雑収入	100,010	96,013	△ 3,997	
(1) 預金利息	10	13	3	
(2) その他	100,000	96,000	△ 4,000	御祝金
計	3,303,387	3,299,390	△ 3,997	

2. 支出の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	比較増減	摘要
1. 総務費				
(1) 会議費	300,000	209,476	△ 90,524	総会、理事会、委員会等
(2) 事務費	30,000	5,623	△ 24,377	
(3) 通信費	1,050,000	1,035,323	△ 14,677	総会通知等
(4) 印刷費	300,000	258,853	△ 41,147	総会関連印刷費他
(5) 備品費	0	0	0	
(6) 慶弔費	100,000	50,000	△ 50,000	卒業祝金
(7) 入会記念品費	0	0	0	
総務費支出計	1,780,000	1,559,275	△ 220,725	
2. 事業費				
(1) 研究会費	100,000	71,035	△ 28,965	東京富士祭 関連費用
(2) 会報作成費	1,000,000	820,240	△ 179,760	『雄峯』第57号
(3) 会員名簿作成費	60,000	60,000	0	会員名簿メンテナンス
(4) 通信費	60,000	23,470	△ 36,530	研究会案内等
事業費支出計	1,220,000	974,745	△ 245,255	
3. 助成金				
(1) 支部活動助成金	60,000	0	△ 60,000	
(2) 支会活動助成金	80,000	60,000	△ 20,000	少林寺雄峯会・雄峯MGT研究会・会計人会
(3) 学生活動賛助金	50,000	65,000	15,000	東京富士祭・キャリア情報交流会
助成金支出計	190,000	125,000	△ 65,000	
4. 予備費	113,387	0	△ 113,387	
支出の部合計	3,303,387	2,659,020	△ 644,367	
他会計振替	0	4,598	4,598	
次年度繰越金	0	635,772	635,772	
計	3,303,387	3,299,390	△ 3,997	

一般会計財産目録 平成31年3月31日現在

1. 現金預金等 (単位:円)

種類	金額	金融機関名等
現金	27,681	現金手許有高
普通預金	608,091	三菱UFJ銀行・高田馬場支店
小計	635,772	
差引正味財産	635,772	

2. 電話加入権 (単位:円)

電話番号	金額	取得年月日
03(3362)4565	72,800	S61.11

3. 備品 (単位:円)

品名	数量	取得金額	取得年月
書庫	1	14,000	S61.01
会議用長机	1	17,000	S61.01
椅子	10	18,900	S61.01
白板	1	23,400	S63.06
書類棚	2	36,000	H06.11
会議用テーブル	1	66,950	H08.09
椅子	10	82,400	H08.09
パソコン一式	1	855,352	H09.03
計	27	1,114,002	

上記の通り報告します。平成31年4月9日  
東京富士大学校友会会長 森川 昇  
上記監査の結果相違ないことを認めます。

平成31年4月16日

会計監事 清水かほろ

同 松原あさ

### 東京富士大学 校友会会則

#### 第1章 総則

##### 第1条 (名称)

本会は、東京富士大学校友会と称する。

##### 第2条 (本部の所在地)

本会は、本部を東京富士大学内に置く。

##### 第3条 (目的)

本会は、会員相互の資質の向上と親睦を図り、あわせて母校の発展に寄与することを目的とする。

##### 第4条 (事業)

本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。

1. 各種研究会及び親睦会の開催
2. 会報の作成及び配布
3. 会員名簿の作成及び配布
4. その他必要な事項

##### 第5条 (会員)

本会の会員は、次の者からなる。  
1. 普通会員、東京富士大学及びその前身校の各卒業生、並びにこれらにかつて在学し、入会を希望する者  
2. 特別会員、前項における現旧職員

#### 第2章 役員

##### 第6条 (役員)

一、本会に、次の役員を置く。

1. 会長 1名以内
  2. 副会長 5名以内
  3. 常任理事 20名以内
  4. 理事 50名以内
  5. 委員 各同期生より10名以内
  6. 会計監事 3名以内
  7. 事務局長 1名
- 二、前項の規定にかかわらず、各支部及び支会より委員若干名を置くことができる。

##### 第7条 (役員を選出)

役員は、次により選出する。  
1. 会長は、普通会員の中から総会において選出する。  
2. 委員は、各同期生、各支部及び支会の会員の互選による。

3. 理事・会計監事は、委員会において委員の中から互選する。但し、会計監事は理事を兼ねることができない。
4. 副会長・常任理事及び事務局長は、理事会の議を経て理事の中から会長が委嘱する。

##### 第8条 (会長・副会長)

1. 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理する。

##### 第9条 (常任理事・理事)

1. 常任理事は、会長及び副会長に協力し、会務を分担する。

##### 第10条 (委員)

2. 理事は、理事会を構成する。

##### 第11条 (会計監事)

委員は、委員会を構成し、その会務を掌理する。

##### 第12条 (事務局長)

会計監事は、会計事務を監査し、その結果を総会に報告する。

##### 第13条 (役員任期)

事務局長は、事務を掌理する。

##### 第14条 (委員)

1. 役員任期は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。

##### 第15条 (理事)

2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

#### 第3章 機関

##### 第14条 (委員会)

委員会は、次に掲げる事項を決定する。

##### 第15条 (理事会)

1. 理事は、会長及び理事をもって組織する。

##### 第16条 (総会)

1. 理事会は、次に掲げる事項を決定する。

##### 第17条 (招集)

1. 理事会は、会長及び理事をもって組織する。議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決すなければならない。

##### 第18条 (議長)

1. 議長は、出席者の中から互選する。

##### 第19条 (議決の要件)

総会の議決は、総会出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決すところによる。

##### 第20条 (委任による議決権の行使)

1. 会員で総会に出席することができない者は、あらかじめ議案について賛否の意見を明らかにした書面をもって、出席する会員に委任して、その議決権を行使することができる。

##### 第21条 (総会決定すべき事項)

1. 事業報告及び事業計画の承認

##### 第22条 (議事の制限)

2. 前項の規定により議決権行使した議決の数に、前条の規定による出席者に算入する。

##### 第23条 (事務局)

1. 本会に事務局を置く。

##### 第24条 (名譽会長)

1. 本会に名譽会長を置くことができる。

##### 第25条 (顧問、相談役及び参与)

1. 本会に顧問、相談役及び参与を置くことができる。

##### 第26条 (入会金)

普通会員は、入会金五〇〇〇円を納入する。

##### 第27条 (会費)

普通会員は、終身会費として五〇〇〇円を会費として納入する。

##### 第28条 (臨時会費)

臨時に必要とする会費は、その都度、理事会の議を経て徴収することができる。

##### 第29条 (会費等の不返還)

入会金・会費及び寄付金は、理由の如何に拘らず還付しない。

##### 第30条 (経費)

本会の経費は、入会金・会費・寄付金、及びその他の収入をもってこれに充てる。

##### 第31条 (財産の管理)

本会の財産は、会長が管理する。

##### 第32条 (予算の執行)

本会の予算の執行については、別に財務処理規定を定める。

##### 第33条 (会計年度)

本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

##### 第34条 (届出の義務)

1. 会員は、その住所・氏名・就職場所等の変更があった場合は、速やかに本部事務局まで届け出なければならない。

##### 第35条 (細則)

本会の規定により手続上の細則については、理事会の議を経て別に定めることができる。

##### 第36条 (昭昭和60年6月30日より実施する)

1. 一部改正、平成11年6月19日施行。

2. 一部改正、平成18年6月24日施行。

3. 一部改正、平成21年6月27日施行。

#### 第4章 会計

##### 第26条 (入会金)

普通会員は、入会金五〇〇〇円を納入する。

##### 第27条 (会費)

普通会員は、終身会費として五〇〇〇円を会費として納入する。

##### 第28条 (臨時会費)

臨時に必要とする会費は、その都度、理事会の議を経て徴収することができる。

##### 第29条 (会費等の不返還)

入会金・会費及び寄付金は、理由の如何に拘らず還付しない。

##### 第30条 (経費)

本会の経費は、入会金・会費・寄付金、及びその他の収入をもってこれに充てる。

##### 第31条 (財産の管理)

本会の財産は、会長が管理する。

##### 第32条 (予算の執行)

本会の予算の執行については、別に財務処理規定を定める。

##### 第33条 (会計年度)

本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

##### 第34条 (届出の義務)

1. 会員は、その住所・氏名・就職場所等の変更があった場合は、速やかに本部事務局まで届け出なければならない。

##### 第35条 (細則)

本会の規定により手続上の細則については、理事会の議を経て別に定めることができる。

付則 この会則は、昭和60年6月30日より実施する。

1. 一部改正、平成11年6月19日施行。

2. 一部改正、平成18年6月24日施行。

3. 一部改正、平成21年6月27日施行。

### 会務分掌等に関する規定

本会役員の方分掌等に関する事項を、会則第35条の規定により、次のとおり定める。

第1条 常任理事会は、会長、副会長及び常任理事をもって構成し、理事会に提出すべき議案の決定並びに会務執行その他必要な事項について協議する。

2. 会則第15条第二項第三号の規定は、前項の場合に適用する。

第2条 本会の事務局に次の部を置き、常任理事(以下担当理事という)が分掌する。但し、副会長若しくは、常任理事会の議を経て会長が委嘱する理事が分掌することを妨げない。

#### 一、総務部

#### 二、事業部

#### 三、組織部

第3条 総務部においては、委員会、理事会及び総会に関する事項並びに財務処理に関する事項のほか、他の部に属さない一切の事務を処理する。

但し、前条に規定する事業部及び組織部において会務を行うことができない事由がある場合には、総務部において会務を行うことができる。

第4条 事業部においては、会則第4条の規定に基づき、各種研究会、法律、会計、簿記、経済経営等の各部門及び親睦会の開催、会報の作成及び配布、その他必要な事項を行い、本会の目的を達成する。

第5条 組織部においては、会員名簿の作成及び配布、会員の増大に処して、相互の有機的朋友関係を図るとともに支部及び支会を積極的に助成し、本会の基礎を強化する。

第6条 本会の事務局に事務局次長を置き、これに補佐させることができる。

2. 各部に部長を置き、部長はその会務を掌理する。

3. 事務局次長、各部の部長及び担当理事は常任理事会で協議して定める。

4. 会則第15条第二項第三号の規定は前項の場合に適用する。

第7条 本会の会議を開催した場合は、議事録を作成し、議長及び議長の指名する議事録署名人2名が署名しなければならない。

2. 前項の議事録は、総務部において保存しなければならない。

第8条 本会は次の基準により支部及び支会を設置することができる。

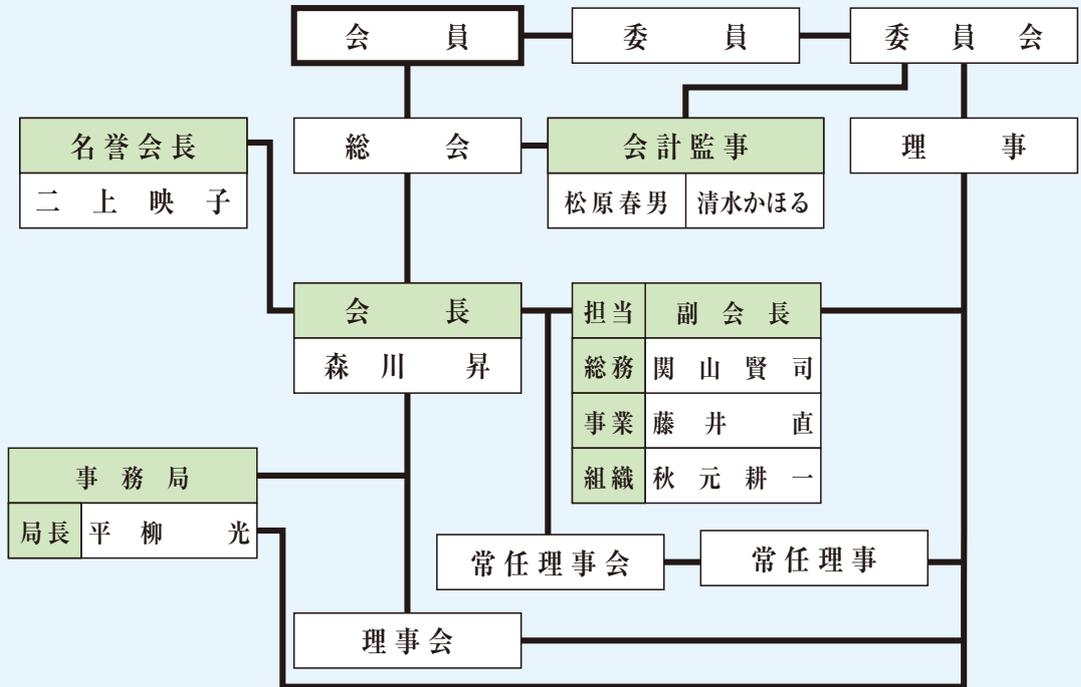
1. 各都道府県に支部を組織するとき。

2. 各域等の会員約30名以上で支会を組織するとき。

付則 この規定は昭和57年9月5日から実施する。

一部改正、平成18年6月24日施行。

平成31年度校友会事務組織・分担表



顧問	
倉橋	清文
石井	末之進
関	實
井上	和子
佐藤	雄一郎
若狭	茂雄
本間	羚次

相談役	
谷	康昌
北爪	登

常任理事		
総務部長	事業部長	組織部長
青野 貴礼	八城 一夫	大泉 浩三
高明 勝利	鶴木 由美	阿部 國茂
松本 要一	三津石 真知子	高橋 節男
中鉢 けい子	北村 啓吉	谷口 幸恵
森田 邦子	折笠 信子	田野 美佳
渡邊 漸	田中 千枝子	持丸 貴美子
矢部 友里		

理事		
米田 敏子	蟹江 雅子	千葉 公兀
鈴木 健治	平 常章	鈴木 元
堀越 宏次	松井 幸和	封馬 昭次
松岡 めぐみ	久下 賢二	平田 友孝
関根 康雄	宇宙 聡	三坂 功
牧野 真理子	岩瀬 祐之	大畑 竹宣
落合 恒彦	土橋 廣義	長谷川 祥平

(令和2年3月18日現在)

## 編集後記

●令和二年になりました。雖まつりの前の事です。あるアスリートの少女の映像が届きました。平成時代に背負った世界からの解放の姿でした。そのメッセージは力強く

健気で、すべてが美しかった。きつと卒業生の心にも響いたことでしょう▼それから…。雖まつりの後の事です。問題の災禍で世界中が戸惑いの日々です▼昭和時代は物言えぬ時もありましたが、人間と向き合いました。平成時代は自然と向き合いました。今も続く大震災の悲劇は忘れられません。令和時代は？見えない敵と向き合っている、と言った人がいました。何も語れません▼今は卒業生とアスリート少女たちが輝く時を待っています。

鵜木由美

●今回新型コロナウイルスの影響で、肺疾患のある私は外出禁止になっておりましたので、編集者としての役割を全く果たせませんでした。申し訳なく、編集委員の皆様にはお詫び申し上げます▼今後このような環境変化が再び起こり

うることを想定し、現在編集者の多くの高齢化を考慮の上、若い校友の方のご参加をこい願う次第です。

三津石真知子

●令和最初の雄峯編集委員会は、けれど新型コロナウイルスの所為もあり、私は全く参加出来ずにいました。だから「編集後記」と言われても、というのが本音の話。でも世間は、絵に描いたようなデマの大流行（インフォデミック）。どこそこで感染者が出たとか、これを食べれば感染しなくなるとか、材料が無くなる前に買い溜めないととか。そんな中で自分がデマの発信源（インフルエンサー）にならないようにする為には、地に足着けて、落ち着いて、堅実に日常を過ごすこと。それだけでしよう。不要不急の外出を避け、いつもの日常を、いつものように。だから私は、日々是好日。

青野貴礼

●思うに温暖化異常気象と云われて珍しかった時代があった気がする、昨今の気候は普通なのか異常

なのか、考えると難しい▼明日を心配して下駄を蹴り上げ占った頃が懐かしいね▼編集委員に携わり

三回目、原稿から校正刷り文字の誤りなどを直す作業だとやっと理解した次第です▼第五十八号『雄峯』、それぞれ思いのこもった文章を拝読させて頂き楽しい時間を持てました▼梅田さんの講演、マッターホルン難所にあるフィックスロープが綱引きロープ位の太さがあるらしく何故か納得感があります▼四国石鎚山の鎖場の鎖もびっくりする大きな輪だったな▼コロナ熱風にも負けず、編集委員の皆さんお疲れさまでした。

大泉浩三

●令和初めの編集会議、藤井先生、八城先生におんぶにだっこになり、お二人に感謝します▼新型コロナウイルスのため、いろいろな催しを取りやめになり、少林寺拳法の3月の練習も、出来なくなりました▼早坂忠博先生を偲ぶ、多くの人が投稿してくれました。私は、学生時代も卒業してからも接触がないので皆様の原稿を、読みまし

て、先生の活躍を知りました▼編集の皆様お疲れ様です。

秋元耕一

●ご卒業を祝福申し上げます▼餞けとしまして次の言葉をおくりたいと思います短い言葉ですが大変立志性に富んだ言葉です▼「この道より我を生かす道なし、この道を行く」武者小路実篤▼己で決めた道を捨てることなく己を信じて進んでいって下さい。

北爪 登

●新型コロナウイルスの騒動の最中に、ご寄稿いただいた皆様・会報誌の発行のために編集活動に励んだ皆様、ありがとうございます▼前号まで『雄峯』の制作にご尽力いただいた早坂忠博先生がご逝去され、今改めて寂しさと感謝の念を覚えました。ご冥福をお祈り申し上げます▼いろいろと思いついて深いプロセスの第58号ですが、最後は藤井直編集委員長長のパワーで二応従来通りに仕上がりました。諸々の思いを込めてありがとうございます。

八城一夫

●二上映子名誉会長には毎回、『雄峯』の編集作業を円滑に進めるために多くのご支援をいただいておりますことを委員一同幸せに感じております▼また今号には井原久光学長からは厳しいなかにも、熱意と親しさに満ち迫力の溢れるメッセージをいただき掲載することができましたこと、まことに幸甚に存じます▼さて、昨夏六月十二日、早坂忠博名誉教授が他界されました。早坂先生は昭和四十一年就任以来教務・図書館・入試・四年制設立準備室・学生・就職・短大学長・四大学長・理事等多くの部門で責任ある責務に就かれ多難な時代に激しい難関を終始誠意ある姿勢で貫いてこられました▼わけてもある学長さん提起の問題解決にあたって早坂先生が示された二上仁三郎第二代理事さんとのチームプレーの迅速さは目を見張るものがありました▼早坂先生は今回二度目の四年制大学設立に際しては、創設の趣旨を井原久光学長の「学長に就任して」にありま

すように、「良き人を創ること」が、良き社会を作る」という、より基本的な姿勢に戻ることがを基盤として共有することで、高橋清吾、内ヶ崎作三郎両師の影響を引き継いで、高らかに高田勇道先生によって揚げられた「大愛・正義・文化」の内実を固めることのできる具体的な方向付けを出願責任学長として為される選択をすることで内容を現実路線に乗せるお仕事をされました▼早坂忠博先生は山形から出てこられて、早大、東大を経て、富士短期大学、東京富士大学で研究、教育に専念されました▼私共はいまここに早坂先生が所属されておられました日本デュイ学会元会長でいらした鈴木順子教授、早稲田大学政治経済学部経済学科酒枝義旗ゼミご出身の蘇畑卓郎教授、着任直後から親しく部活の顧問としてお付合いを続けられたワンダーフォーゲル部OB会（ほたび会）会長の細井隆夫氏、校友会会長、事務局長としてそれぞれ親密な関係を構築された若狭茂雄氏、三井英一氏、元副会長の鶴木由美氏、総務部長の青野貴礼氏に

追悼のお言葉をお願いいたしました。ともに早坂忠博先生をお偲びさせていたただきたいと思えます▼「活躍する校友」の田代伸子氏には急な依頼にも拘わらず快くお引受けくださいました。きちつと時代を反映し、かつリードする方向性が埋め込まれた言葉を味わい深く読ませていただきました。ありがとうございました▼少子化のことがとうございました▼少子化のこともあつてでしょうか新入会員の少数化で本会の財務もきちちち鳴っています▼変わらない熱意をお示しくださいました大学関係部署の方々と編集委員会の皆様、なかでもとくに今回は少林寺OB委員諸氏にたいへんお世話になりました。なお、寄稿原稿をデータ化したうえでの入稿作業はすべて事業部長八城一夫氏が担当しました。各氏に心よりの謝意を申し上げます。

藤井 直

### 東京富士大学校友会 第71回定期総会のお知らせ

第71回定期総会につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、安全を考慮して開催中止を決定いたしましたので、何卒ご理解、ご協力を賜りますよう、お知らせとお願いを申し上げます。

### 東京富士大学校友会 令和2年度研究会のお知らせ

日時 令和2年10月25日(日) 予定  
午後1時30分～3時30分  
会場 東京富士大学 五号館  
演題・講師は未定



## 雄 峯 第58号

令和2年3月18日 印刷  
令和2年3月20日 発行  
発行人 東京富士大学校友会  
森川 昇  
編集人 「雄峯」編集委員会  
事務局 東京富士大学  
学生支援部内  
〒169-0075  
東京都新宿区高田馬場3-8-1  
TEL. 03-3362-2252  
印刷所 株式会社コーエー

## 「雄 峯 第58号」編集委員会

委員長	藤井 直	
委員	青野 貴礼	秋元 耕一
	鵜木 由美	大泉 浩三
	北爪 登	田中 千枝子
	平柳 光	三津石真知子
	八城 一夫	

(五十音順)

# 雄峯



TOKYO FUJI UNIVERSITY  
東京富士大学校友会